

平成28年6月10日

1. 出席議員

議長 杉原豊喜
1番 豊村貴司
3番 朝長 勇
6番 松尾陽輔
8番 石丸 定
10番 上田雄一
12番 古川盛義
15番 末藤正幸
17番 吉原武藤
19番 川原千秋
21番 松尾初秋
24番 谷口攝久

副議長 吉川里己
2番 猪村利恵子
4番 山口 等
7番 池田大生
9番 石橋敏伸
11番 山口裕子
14番 山崎鉄好
16番 宮本栄八
18番 山口昌宏
20番 牟田勝浩
23番 江原一雄

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 友廣秀敏
次 長 江上新治
議事係 長 吉永和彦
議事係 員 杉原啓仁

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	小	松		政
副	市	長	前	田	敏	美
教	育	長	浦	郷		究
副	教	育	浅	井	雅	司
技		監	松	尾		定
総	務	部	北	川	政	次
企	画	財	平	川		剛
営	業	部	井	上	祐	次
営	業	部	千	賀	耕	司
営	業	部	小	田		修
く	ら	し	大	宅	敬	一
く	ら	し	井	上	将	治
こ	ど	も	諸	岡	隆	裕
こ	ど	も	水	町	直	久
ま	ち	づ	古	川	清	茂
山	内	支	橋	口	一	夫
北	方	支	岩	瀬		清
会	計	管	中	野	博	之
上	下	水	笠	原	孝	久
総	務	課	川	久	保	和
財	政	課	松	尾		幸
企	画	課	古	賀	龍	一
		長				郎

議 事 日 程 第 2 号

6月10日（金）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成28年6月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
1	3 朝 長 勇	1. 人口減少対策について 2. 熊本地震被災地支援について
2	7 池 田 大 生	1. 市政運営について 2. 教育について
3	16 宮 本 栄 八	1. 財政政策 2. 市の住宅政策 3. 道路の整備 4. 市施設の今後の整備方針 5. 都市計画道路の今後 6. 図書館・こども図書館 7. 北方幼稚園の方針 8. 学校等の整備
4	2 猪 村 利 恵 子	1. 災害対策について 2. 新庁舎建設について 3. 交通政策について 4. 女性の活躍について 5. 子どもの貧困について

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。休会前に引き続き、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を開始いたします。

一般質問は、12名の議員から39項目についての通告がなされております。

日程から見まして、本日は2番 猪村議員の質問まで終わりたいと思います。

質問の方法、時間につきましては、議会運営委員長の報告のとおりでございます。

議事進行につきましては、特に御協力をお願いいたします。

また、執行部の答弁につきましても、簡潔でかつ的確な答弁をお願いいたします。

それでは、まず最初に3番 朝長議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。3番
朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、3番 朝長 勇の一般質問を始めさせていただきます。

その前にまずはですね、4月の熊本大分地方の地震におきまして被災された皆様へ心よりお見舞いを申し上げます。

被災地の支援につきましてはですね、今後も継続的に取り組む必要があると考えておりますけれども、この点につきましては2番目の質問で取り上げたいと思います。

まずは、1番目の人口減少対策の質問に入らせていただきます。

武雄版地方創生戦略であるスター戦略においてもですね、平成31年に人口4万9,000人を維持するということが大きな柱になっているかと思っておりますけれども、まずはここで人口の推移をざっと確認してみたいと思っております。平成18年、合併してからですね、これデータとしては統計データが26年までだったので26年まで書いておりますけど、この8年間でざっと2,000人ほど、人口が5万2,000から5万ちょっとですね、2,000人ほど減っているという現状がございます。ホームページ上の最新のデータでは、既にもうちょっと5万人を割っているような厳しい状況となっております。

こういう人口が減少していく傾向というのに、なんとか歯止めをかけなきゃいけないということで、大きな対策の柱としましては移住政策、Uターン、Iターン、Jターン等、出生率の向上というふうに大きく分かれるかと思っておりますけれども、今回は出生率の向上のほうについて議論を深めていきたいと思っております。

さらに出生率の向上ということを考えたときに、既に今子どもを育てていらっしゃる方が2人目、3人目を産みたいという子育て支援と、さらにもう一歩手前の婚活支援といえますか、いわゆる、婚姻率を上げる、そういう対策に大きく分かれるかと思っておりますけれども、今回は婚活支援について取り上げることにしております。

どんな対策についてもそうなんですけれども、限られた予算で効果的な対策を打つ、そのためには問題の本質的な原因、これをしっかり把握することが重要になってくると考えておりますけれども。ここで質問ですけれども、いわゆる晩婚化とか婚姻率の低下、この原因に

については執行部のほうではどういうものがあると考えていらっしゃるか、まずお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

おはようございます。晩婚化、こういった原因といいますか、さまざまな要因があろうかというふうに思っております。時代の変化、意識の変化、さまざまな要因が重なって御指摘のような晩婚化が発生しているのではないかというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

今言われたようにですね、これっていう1つの原因ではないっていうのはもう確かだと思えます。例えば私の知り合いでも付き合っている女性はいるけれども、ちょっと仕事をリストラされて仕事がないから、ちょっと結婚に踏み切れないとか。または、単純に異性関係を築くのが苦手とかいろんな状況、理由があると思えますけれども。そういう個別の原因に対して、一つ一つ丁寧に原因を洗い出して対策をしていくというのが必要になってくると思えます。

今回の質問を取り上げたのはですね、結論として婚活支援、もっと突っ込んで言えば、お結び課の取り組みをもっと強化していくべきだろうということをご提案したいということで質問に取り上げております。

なぜ婚活支援が今必要なのかということをご理解してもらうためといいますか、問題意識を共有していただくために、ちょっと今からいろいろ数字を示して、武雄市の現状について認識を共有していきたいと思っておりますので、ちょっと聞いていただきたいと思うんですが、その中で数字を見ながらちょっと市長の感想等もお尋ねしたいと思います。

まずは、子どもの人口0歳から14歳までの人口をざっと見てみます。期間は先ほどの平成18年から26年まで。色分けしているのは5歳ごとの区切りです。0から4歳、5から9歳、10から14歳ということなんですけど、その総数が一番上に出ていまして、平成18年7,933人、平成26年が7,075人と、8年間で850人ぐらいですかね。ざっと概算で言えば毎年100人ずつ子どもが減っていると、そういう状況が今現在の武雄市の姿です。これだけ見るとやっぱり減ってるなど、非常に対策が急務であるという危機感を抱くところなんですけれども、実際に対策を急いでやる上でですね、もう少し突っ込んで見てみたいと思えます。

これが単純に同じ年齢で推移を見るのではなくて、同世代の人口、5歳区切りでまた人口を区切っているんですけれども、左側は平成21年の0から5歳区切り、5年区切りの人口の数字です。右側の数字が平成26年、つまり5年後ですね。一番左上の数字、平成21年の0

から4歳が2,280人いました。5年後どうなるかという、0から4歳の子どもたちは、5歳から9歳になります。そうなったときに、じゃあ何人になっているかっていうのがこの赤の矢印の先ですね。2,359人になっています。差し引き79人のプラス。つまり同世代の子どもたちだけ見たときはふえている。こういう動きが5歳から9歳にも同じ動きがあります、ふえている。合わせて101人子どもがふえています。10歳から24歳までのところは、どうしても高校卒業、大学卒業、進学、就職というのが入って、やっぱり武雄には大学がない、また、大企業もないということでここはもう減るのはどうしようもないですね。

ただ、0から9歳までの子どもたちの親の世代に当たるだろうと思われる20代後半から40代前半ぐらい、ここも確かにふえているんですよ。98人ふえている。こういう傾向がずっと平成18年以来ずっと続いています。つまり子育て世代は、どんどん武雄に入ってきているという状況があるわけです。卒業して引っ越す子どもたちを除けば。ちなみに平成18年からの動きを見ても同じように子どももふえて、親もふえるという傾向があります。

頭の数字だけ見ると減っているなという、そういう悲観的な感じになるんですけど、こーやって個別に詳細に追っかけるとふえている、つまり家族の——多分、転勤が要因だと思いますけど、家族連れで子どもを連れて引っ越して来る方のほうが多いわけですよ、世代を区切ってみると。

ここでちょっと質問なんですけれども、こういう子育て世代がふえているっちゃうのは、非常にこーやって見ると、ああ、なるほどと、明るい、大丈夫だなと私自身は思ったんですけども、こういう動きというのは非常に参考にできると思うんです、今後の対策を打つ上でですね。ちょっと小松市長にこの数字を見てどう感じられたか、ちょっと感想といいますか、実感とこの数字の、何ていうんですか、乖離というか、実感とどうか、質問をしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おはようございます。改めてこういう数字をみると、私の実感以上に子育て世代が武雄に來られているなということを感じました。やはり武雄はそういう意味で子育てがもともとしやすいという強みがあると、私も申し上げてきてましたけれども、そこが数字に出ているのかなという気がしています。やはりその子育て世代のこの数をですね、これを見て思うのはこの数をまずふやしていくと。さらにふやしていくところの一つ。もう一つは、やはりこの赤で書いてありますとおり、高校、進学あるいは就職で一旦外に出た方をいかに呼び戻すかというところは大事になってくると。そういう意味で私はその一つとしてやはり雇用の創出、そういったものを大事にしていきたいなど、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

この動きをちょっともう少しわかりやすく折れ線グラフにしてみるとですね、一番下の青い線が0歳から4歳、上の赤い線が5歳から9歳、緑が10歳から14歳の推移で、年齢が上がるほどグラフが上にあるっていうのは、やはり引っ越してきて子どもがふえているから上に上がっていくんですね、年齢が上がると。先ほど見せた数字にはAというところが平成18年の0から4歳が平成23年の5から9歳というふうに73人ふえると。こういう考え方でいくと子育て世代は、子どもたちはふえているんですね。プラスプラスで、ずっとプラス、世代ごとに区切ってみると。こういう動きがある、これに加えてさらにこれから官民連携の教育とか、先日工場が完成した大同メタルさんとか非常に雇用環境が改善する、または子育て環境の魅力アップというような魅力が上がっていくというのはもう確実なところなんですけれども。

そういった明るい傾向がある反面ですね、ちょっと0から4歳の一番下の青い線を見ると、平成22年から23年にちょっとふえて非常にいい傾向となったものですが、ここからちょっと減り始めていると。これはやはり出生数が、生まれていないということなんだろうと思うんですね。だから、最初言ったように働く世代が子どもをつれて武雄に来ていらっしゃる、そういう流れがもう既にあるわけですよ、できている。それを強化する対策も既に打っている。教育そして工業団地。こういう状況を見たときに一番下の世代が減っている、やはり生み育てる、そういうところに軸足を置いて、今後この人口対策というのを考えていったほうがいいのではないかとというのが私の考えなんですけど、どう感じますか、私の意見に対して。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

そうですね。子育て世帯に対する施策、これは多子世帯への支援、そういったものも大事ですけども、あわせてやはり0を1にしていくということが出発点だと思います。これは小泉進次郎議員もおっしゃってますけれどもですね、まさにこの部分をどうしていくかというところは、喫緊の課題かなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

ここでですね、ちょっと地方創生ということで私も自分なりにいろいろ勉強させてもらってるんですけども、非常に参考になった書籍といいますか、競わない地方創生ということで久繁哲之介さんという方が書かれているんですけど、やっぱり自治体間で競争するとお金

を使い合って人口の奪い合いをやると、お互い疲弊して続かないと。そういう自治体間での人口の取り合いみたいな競争はすべきではないよというのが大きな柱になっているんですが。この方が言われるのもやはり、ビジネスの感覚を取り入れて地方創生に取り組みないといけないということが書かれているんです。この中で一つ、少子化対策の事例について取り上げているんですけれども、これは出生率の向上対策で成功事例として紹介されている長野県の下條村という自治体があるらしいんですけれども。なんか自治体関係者の間では奇跡の村と、出生率を向上させて奇跡の村と呼ばれている村があると。私も本を読むまで知らなかったんですけれども、そういう人口 4,000 人ちょっとぐらいの村があります。そこが出生率を向上させて少子化に歯止めをかけた。この理由についてですね、理由は何だと思えるか。まず、下條村って御存じですかね。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私、下條村、行ったことはないんですけれども、その取り組みはやはり有名ですので存じております。私の選挙戦のときも下條村の例を幾度となく取り上げさせていただきました。

下條村は若者の雇用、若者定住住宅の建設とか、今から 20 年前ぐらいにスタートされていたというふうに記憶しています。やはりそういった子育て世代に向けた施策、これは今では当たり前のことを各自治体がどこもやっていることなんですけれども、それをいち早く 20 年前に、ほかがやっていない時期にやったというそういう先見性。そこがこの村が奇跡の村だと呼ばれる理由の一つじゃないかというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3 番朝長議員

○3 番（朝長 勇君）〔登壇〕

さすがです。私はちょっと本を読むまで知らなかったんですけれども。今、市長おっしゃったとおり 20 年ぐらい前、1997 年ぐらいから村の状態に危機感を感じた会社の経営者が村長に立候補して、とにかく行財政改革をとことんやって財源を生み出して、いち早く若者向けの公営住宅を提供したということで、隣の飯田市というのが 10 万人ぐらいの市があるのでそこから移住者がどんどん入ってきたわけですね。結婚する予定がある人とか新婚さんとかに限った、そして移住してきたと。だから村だけ見ると非常に出生率が上がったと。

ただですね、これは奇跡の村といって成功事例として紹介されているんですけど、もう 20 年たって逆に今度はそこで育った子どもたちが出て行って、今度は人口の急減という減少が起きている。この村自体はものすごい村長がやり手で次の手、すぐに先手、先手を打つ方なのでまた次の手を打たれるんじゃないかとは思っていますけれども、ここで何が言いたいのかというところですね、そうやってお金をかければできる政策っていうのは寿命が短いということな

んですよ。よその自治体がまねをしだすと効果が薄くなっていくということを、ちょっと分かっていたらいいなと思って取り上げさせていただきました。

ここでちょっと質問ですけれども、この本にも書いてあるんですけど、今言ったように予算を投入すればできる、そういう対策というのは賞味期限が短くて、自治体の財政的に疲弊を招くということが書いてありまして、私も非常に同感なんですけれども、この点について市長はどう感じられるかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

その予算のかけ方だと思いますし、さまざまな考え方あると思いますけれども、少なくとも私は、今住んでいる方がここにずっと住み続けたいというふうに見えるようなまちにするというところが、とにかく私たちが追求していかなければならないことだというふうに思っています。

移住にしても、やはりそういうまちでないと移住しても定着はしないというふうに思っています。下條村にも昔から移住はかなりふえたということですけども、私もだからといって移住政策を否定するものではなくて、きちんと移住してきたい人がまずまち自身の魅力を高める。そしてその魅力をしっかりと発信をして興味を持ってくれた方にしっかりと来てもらえるような環境をちゃんと整えておく。そのための手厚いというかきめ細かいサポートをする、そういった移住政策は私は必要だというふうに思っております。

ちょっと話が移住になってしまいましたけど、いずれにしてもやはりまちの魅力を先手、先手を打ってどういうふうに高めていくか、そこをとにかく私たちは不断に追究していかなければならないと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

おっしゃるとおりですね、移住そのものに目を向けるのではなくて、住んでいる人が住みやすいまちと、子どもを育てられるまちをとことんつくっていくと、その結果として移住がふえると、そういうやはり方向性としては取り組んでいく必要があると思います。

ここでちょっと次の質問なんですけれども、先日、武雄では教育移住ということでウェルカム武雄ハウスというのがこの春オープンといいますか、でき上がったと思いますけど、これはすべて入居は決まっているんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

若木のほうに2棟、それから武内のほうに4部屋を用意させていただいて、いずれの2棟それから4部屋とも入居されております。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

一緒に聞けばよかったですけど入居された方は市外からの移住なんですかね。その内訳がわかれば。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

若木の2棟につきましては市外の方、それから武内の4部屋につきましてはうち2部屋は市外から、残りの2部屋は市内ですけれど武内町外の方であります。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

このウェルカム武雄ハウスについては教育移住ということで、先ほどの下條村の住宅政策とはちょっと趣旨が違うと思うんですけども。ただ、やはり下條村の例を見ると子どもが大きくなった後のことを今のうちからやっぱりどうフォローしていくのかというのを5年、10年先を見据えて、どんどん住宅をつくり続けるわけにはいかないですから、財政的な面を考えればですね。そうやって教育が終わっても定住してもらえるような、そういう方向にどうもっていくかっていうのを今のうちから考えていただきたいと思ってちょっと取り上げてみました。

さて、ここで、また出生率の話に話を戻してみたいと思いますが。出生率に密接に関係する、最初は今回の質問、お結び課についてってということで申し上げたと思うんですけども、それに密接に関係する数字をちょっと出してみたいと思います。

武雄市の既婚率のデータを平成17年と平成22年の国勢調査のデータからちょっと数字を算出してみました。平成17年の既婚率、要は配偶者がいらっしゃるという方が一番下の総数で見た場合60.6%、平成22年が58.9%ということで、特に20代後半とか30代とか結構既婚率そのものが下がっている状態です。平成27年のデータが、まだ国勢調査出てないので、そこまで見るともっとわかりやすいと思うんですけども。この既婚率を下がらないようにやはりするというのが、非常にこれを見ると大事だと私は感じるわけです。先ほどの本を読んでみてもですね、実はこの本の中に人口政策の成功事例として武雄市のお結び課が取り上げられているんです。これがちょっと今回の質問のきっかけにもなったんですけども、これからお結び課について質問をしていきたいと思いますが、まずお結び課のこれまで

の実績がどのようになっているかをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

お結び課につきましては平成22年の9月にスタートしております。平成27年度、28年の3月までに成婚が11組、22名の方ということになっております。現在の登録数は、574名の方が登録をさせていただいております。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

成婚は11組、ちょっといただいたデータではお結び課に登録していただいた人同士の成婚だけ見た場合に11組という数字をいただいておりますけれども。登録した方が結婚した、結婚までいかれたという意味では50組100人ぐらいの実績があるということで数字をいただいております。成婚者数ですね。非常にこれはすばらしい実績というんですかね、この本の中でも非常に高く評価されています。ここです。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○3番（朝長 勇君）（続）

お結び課でPRの意味も兼ねてですね、どういう方が登録できるのか、その要件についてお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

お結び課への登録の条件でございますけれど、年齢は問わずということで結婚の意思のある独身の男性、女性ということでございます。また、市外にお住まいの方でも登録ができると。ただし、登録の面談等にお越しいただける距離といいますか、そういったところの場所であれば市外の方でも登録ができるということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

市外の方でも結婚の意思があれば登録可能ということで、ぜひこの質問、議会中継等を見られる方でも知り合いに未婚の方がいれば紹介をお願いしたいと思うところなんです。

先ほど紹介した書籍の中で、このお結び課の業績っていうのは非常によそがまねできない独自の政策ということで高い評価をされておりますけれども、小松市長自身はこのお結び課に

ついてどういう評価をされているかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私自身も、古川課長が先頭となって頑張っていただいております、高く評価をしております。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

私も質問に当たって、古川課長のほうにちょっとお話を伺ったりしたんですけど、非常に情熱的で精力的に動いていただいて、本当にこの課長あればこそとを感じるわけですけども。その成功の要因として、私はやっぱり古川課長がいらっしやってこそ出せる結果であるなど感じたわけですけど、この辺について市長はどう感じられますか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

先ほども申し上げましたけれども、やはりこの仕事は人だというふうに思います。そういう意味で古川課長だからこそ、ここまでの成果が上げられたのではないかというふうに高く評価をしております。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

それだけ、非常に第三者からも高い評価を受けているお結び課の取り組みなんですけれども、いざ、例えば私が結婚したいと思って婚活支援とか武雄市でありよるかなって思ったときに、やっぱりホームページを見ると思うんですね。やっぱりそういう方っていうのは控え目な方が多いんですね、気が小さい方、私みたいに気が小さい方が。なかなか電話してとか人にちょっと結婚したかばってんってなかなか言えない人が多い。そういうときにホームページでちょっと探してみたんですけど、ホームページでまず婚活支援あるかなって考えたらライフシーンから探すの、ここの結婚・離婚。ここを多分選択すると思うんですよ。婚活支援があってるかどうか調べたいときですね。だけどここにはお結び課の紹介がないんですよ、ホームページに。それだけやはり実績を上げている、非常に今から重視すべき取り組みがホームページで紹介されていないっていうのは非常に心もとないといえますか、早急にこれ情報を整備すべきではないかと思うんですけど、これについていかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

ホームページの検索等では、御指摘のとおりなかなか情報にたどり着きにくいという状況があるかと思っております。ホームページの情報提供のあり方については、早速見直しをさせていただきたいというふうに思っております。

また、PRという部分では、昨年の末にポスターを作成をさせていただきまして、各町公民館それから企業様のほうにも、掲示のほうをお願いをして回っているところでございます。情報の発信につきましては工夫をさせていただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

お結び課が始まった当初は、マスコミ等にも取り上げられて結構認知度が上がったかと思うんですけど、もうだいぶ年数も経って、そういうことをやっていることを知らない人も多いんじゃないかと思っておりますので、ぜひそういう情報の周知についてどういった方法が適切なのかを含めて、なるべく多くの人に伝わるような仕組みの検討をお願いしたいと思っております。

古川課長のほうもやはりどうしても人のつながりでやっていく上で限界があると、そこを非常に悩んでおられましたけれども、そういう意味で今お結び課、高い評価を受けてはいますけれどもいろんな問題があると思っております。そういう意味で今抱えている問題、どんなものがあるのかというのをまずお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

現在抱えております課題の大きなものはやはり会員、登録者の掘り起こしでございます。登録者の数が、新たな登録がふえていかないとなかなか1対1のお見合いの機会のほうはどうしても限界があるということで登録者の方々の掘り起こし、御登録のほうを勧めていくということが一番大きな課題だと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

今おっしゃったとおり私も話を聞いていて、やっぱりお見合いを組むときに新しい人が入っていないと次のお見合いの組み合わせができないという、そこが一番、やっぱり誰も彼も適当に組み合わせるわけにもいかんということで、新しい人が入ってこないとちょっと身動きが取れなくなるということはおっしゃってまして、非常に私たちも積極的に独身の人がおったら引っ張って連れて行かんばねと思って聞いていたところでした。

お結び課の成功要因といいますか、なぜ評価されているかというのは出しゃばり、おせっかいだと書いてあるわけですね。結婚ってなかなか自分から結婚したか、結婚したかけんだれかおらんやろかって言える人はなかなか少ないわけで、言える人は結婚できるわけでしょうけども。そういう意味では非常に控えめな方がどうしても異性関係ができにくい。昔はそういう人がいると周りが世話していたわけですね。そろそろあんたちちょっと見合いでもせんねって親戚中、本人よりも周りの人がお世話をして、そういう人の出会うきっかけを周りにつくってもらって結婚できたというのはあると思うんですけども、今非常に個人の自由とかプライバシーとかの問題があって、なかなか不特定多数の人に結婚しんしゃい、結婚せんばいかんとかですね、そろそろどうねとか言いにくい世の中になって、だからこそ出しゃばり、おせっかいというのは非常に大切な資源といいますか、要はあるものを生かす、その出しゃばり、おせっかいができる人というのは地域の資源であるというようなとらえ方をされています。確かにそうだなと。昔は普通にいた人がなかなかいなくなってきたと、そういうのが大事だということが書いてあります。そういう意味からも、こういうお結び課の取り組みというのは、今までは周りの親戚とかがやってきたんですけど、これから行政がやはりもう少し力を入れて、端的に言えばお結び課の業務をもう少し強化していく必要があるんじゃないかなと私は感じているんですけども、これについて市長はどう考えられますか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

先ほど部長が申し上げましたとおり、やはり今の課題の大きな一つは登録者数をさらにどうふやすかと。これまでまだまだ議員の皆様、市民の皆様にも登録者数の増に対してはいろいろ御協力をいただいております。引き続きそこは御協力をよろしくお願ひしたいというふうに考えております。その上でやはり登録者数も、そういった言えばおせっかいというか背中を押すというところも必要ですし、あとはやはりそういうパーティーというのかイベントというのか、イベント単発ではなかなか成功にまで結びつかないというのもデータでは出ているんですけど、やっぱり登録者数をふやしていくというところでは、そういった取り組みも私はいろいろ必要になってくるというふうに思っております。

そういった意味でホームページ、先ほどありましたけれども、そこもしっかりと、そこは早急にやりますし、あわせてやはり古川課長のこれまで持たれていたノウハウとか、そういったものをしっかりと組織として共有できるようにですね、そこは今お結び課の中でもさらに情報共有であるとかノウハウの共有、ここはしっかりと行って、いわばそういった部分での強化は図っていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

最終的にはですね、今小松市長がおっしゃった結論をもう少し具体的にしていこうというのが私の目的ではあったんですけども、やはり今言われたようにノウハウというか、これ誰も彼もできないわけですね。やはり人間というか、人のお世話が好きな人とかをやはり古川課長と一緒に動いて、古川課長が現役で動いていらっしゃる時期に、やっぱり次の引き継ぎを、靴持ちやないですけど一緒について古川課長がやっていることを実際に見て、古川課長の情熱とかまで感じないと、なかなか引き継ぎが難しいんじゃないかと思うんですよ。そういう意味で、体制を強化するとおっしゃいましたけど、やはり報酬面も含めてですね、例えばどういうポストになるか知らないですけど、課長補佐とか付き人みたいな感じで1人マンツーマンでノウハウを吸収させるような取り組みが必要だと思うんですけどこれについてどう感じますか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

課長補佐とかを設置するとかいうことはちょっと今すぐは考えていないんですけども、私としては古川課長に体の続く限りやっていただきたいのと、杖をついてもやっていただきたいなというふうに思っているんですけど、それぐらい頑張ってもらっていますので。ただ、おっしゃるところはもっともだというふうに思いますので、そこは行動をともにするですとかですね、まずは今の体制の中でさらに取り組めるところまだまだあると思いますので、そこからやっていきたいと、そういうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

ぜひ、今古川課長がしっかり取り組まれている間にですね、次につなげる取り組みというのもぜひ力を入れていただきたいと思います。

では次の、熊本地震の被災地支援について質問を移っていきます。

被災地の支援については、先日残念な不祥事等もありましたけれども、被災地の支援そのものはこれからもずっと継続して続けていかなければならないと考えております。

最近、報道等での取り扱いも大分減ってきたようなんですけれども、やっぱり被災地の状況そのものはほとんど変わっていない、そういう状況のようです。非常にボランティア等まだまだ支援が必要だと。

ここで質問ですけども、4月の補正予算で支援の予算が組まれたわけなんですけれども、800万ぐらいやったですかね。これについてどういう支援を行ったのかという支援の実績についてお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

6月3日までの予算のほうの歳出状況から、御説明申し上げたいと思います。

支援物資、市のほうで調達をいたしました支援物資、カップラーメン、粉ミルク等、こちらのほうで59万7,000円支出しております。また、職員の派遣に伴います費用、こういったものが44万5,000円。それから支援物資の輸送、トラック等の費用、こういったものが27万4,760円。それから障がい者の方が一時非難をされたときに必要だった寝具レンタル、特殊寝台、こういった費用に7万8,000円。こういった費用を合わせまして150万4,000円ほどを現時点で支出をしております。

また、熊本、指定寄付として頂戴した寄付金、こちらのほうが市内外の11の団体、企業様、個人から218万6,900円の寄付をいただいているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

当初の予算をほぼ使い切ったような感じではあるわけですかね、予算としては。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

まだ今回の補正の予算の枠につきましては、まだ余裕がございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

それでは、今後についてどういった支援を行っていくのか。また、スケジュール等わかる範囲で結構ですのでお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

おはようございます。熊本地震の支援の今後の方針ということでございますが、これまでにもハブ機能を含む物的支援や人的支援、被災者の受け入れ、募金活動等に取り組んできたわけですが、今後ますます本格化するだろうと思われるこの復興活動ですが、これにつきましては一刻も早く復興ができますように、大きな被害のあった被災地等への長期の職員派遣等も含めてですね、今後とも被災地の支援に協力をしていきたいというふうに考えております。

ただ、現在ボランティア等もお声があります。これにつきましては現在まだ余震が御承知のとおり6月5日までの間に1,700回ぐらいありまして、今毎日平均でも8回以上の震度1以上の余震があつていると。きょうの新聞でも、今後も熊本で震度6、あるいは大分で震度5の地震も発生するおそれがあるというような、非常に流動的な情報もありますので、そういった情報も含めまして、状況を、現地確認をしながら、今後とも被災地へは支援活動をしていきたいというふうには考えております。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

熊本、大分の被災地支援に対しては、総論としては今部長が申しあげましたとおり、私たちはとにかく引き続き被災地支援を進めていくという方針であります。とりわけ熊本県の高森町、こちらの草村町長さんとは頻繁に連絡を取りあつております。高森町は被災自体はそれほど大きくないんですけども、いわゆる南阿蘇地域、南阿蘇村とかが隣接しておりますので、高森町を通じて南阿蘇地域の支援ができればというふうに思つておりまして、私も町長にはとにかく要請に応じて武雄市は議会、市民、行政一丸となつて支援をいたしますので、とにかくなんなりとおっしゃってくださいというふうに言つております。私たちとしましては、そういった現地からの要請に対して皆さんに、今後募集を募つたりして、被災地支援につなげていきたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

今小松市長のほうから非常に力強いお言葉をいただき、安心しているところでございますが、やはり被災地を支援する、被災者の方を助けるという目的ももちろんあるんですけども、支援することによって、武雄の、例えば市民が行ったら、私もこの前、ライオンズクラブに所属してしまつて、ちょっと炊き出しの支援を行つて現地を見てきたんですけども、やはり現地を見るというのは非常に大切だなと感じます。それは、やはりその人自身の防災意識を高めるという意味でも、今後の武雄市民の防災意識を高める意味でも非常に大切だなと感じました。

例えばちょっと新聞に載つていたんですけども、今年の2月に防災白書が発表されてまして、九州では太平洋側の九州、宮崎、鹿児島、太平洋側の3県については、大災害の危険性があると考えている人が7割いらつしゃると。しかし、太平洋に面していない熊本、福岡、長崎、佐賀、これはまだ熊本地震の前のデータですね、アンケート。これはもう5割未満ということで、太平洋側と反対側で意識の差というのは非常に大きいわけです。こういう防災意識を高めるというのは非常に、高める意味でも市民の人たちに支援に行つていただくとい

うのは非常に大切だなと思うんですけども。

今度は武雄市の防災体制っていうのを考えた上ですね、逆に一番武雄市の課題としてはどういふものがあると考えていらっしゃるかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

先ほど議員さん御指摘のように、西日本新聞にそういった太平洋岸に隣接する県については非常に意識が高いわけですけども、玄界灘のほうに近い県については特に佐賀も含めて福岡、長崎まで意識が低いというのはデータを示されたところでございます。

武雄市についても、佐賀県内には断層が何カ所かございますが、直接武雄市の下を通っている活断層というのはないと。ただ、近くに大町付近まで九州の北縁活断層というのがありますけども、直接的な影響がないように感じられますが、県としてはやはりこういった震災がある場合には震度7も武雄市でも考えられるということでございますので、そういった意識の醸成ですね、武雄市は水害だけじゃなくて地震もあり得るというようなことを含めて、そういった防災意識の醸成に努めていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

今おっしゃったとおりですね、まずは意識改革というのが最優先だろうということで、これが非常にわかる事例というのをちょっと最後紹介させていただきたいと思うんですけど、兵庫県豊岡市のほうでちょっと前になりますけど2004年の10月に台風23号というのが来まして、そのときそれまでの災害の教訓を生かして防災無線の戸別受信機を設置していたと。ということで、87%の住民が避難勧告を聞いていました。聞いてはいたんですけども避難したのは25%と。結局、避難勧告は87%は聞いているんですけども、40%の人は家が浸水してから2階に逃げたということで、結局防災無線受信機を設置しても意識が高まらないと、効果がないということなんですよ。

もう一つ同じような事例なんですけど、新潟県の三条市で2011年の7月に新潟・福島豪雨災害というのがあっておりますけれども、ここでもデジタル防災無線を整備してまして、93%の住民が避難勧告を聞いていたと。結果として避難したのは11%ということで、やっぱり意識を変えないとどんだけお金を投入して機材を整備しても、なかなか効果が出ないということなんですよ。だからそういう意味でもぜひ、市民の皆様に被災地に行って意識を、なかなか意識を高めようと言ってもなかなかかけ声だけでは上がらないと思いますので、そういう意味でも、財源とかではですね、こういう臨時の取り組みなので、ふるさと納税とかでもし枠があれば予算を取って、東北の震災のときのように、これは4年前、5年前か、東

北震災のときにチーム武雄として派遣しましたが、こういう取り組みをぜひ予算を取って
お願いしたいと思いますけども、これを最後の質問として答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

防災意識を高める、これは非常に大事だと思っておりますし、そういう意味でのボランテ
ィアで現地実際に実際行くというところは、私は防災意識を高めるところに非常に資するもの
であるというふうに思っております。実際市民の皆さんからもボランティア、声があれば自分
はすぐ行くよというふうに多くの方から言われております。先ほど申し上げたましたとおり
高森町長にもその旨は伝えております。

現地では当初はそういう、向こうから武雄にお願いしようと思っていましていんですけども、
例えば南阿蘇村でもかなりノロウイルスが広がって、とても来てもらう状況ではなかつた
のでちょっとそれが延びているというような話もありますし。先ほどありました、余震が
大体1日10回程度まだ起こっていると、現在重機がようやく入り始めて、家を壊していく
ようなところがようやく始まっているような状況であると。そういった状況でありますので、
じゃあきょう、あしたお願いするというような状況ではないというふうに私は聞いておりま
すが。ただ、いずれ確実に必要となる時期が来ると、そういうふうにも町長からも言われて
おります。東日本大震災のときは、発災後、距離なり被害の規模はあるとはいえ、6カ月後、
3月11日から大体6カ月後の9月から10月にチーム武雄としてボランティアの支援に行っ
ております。必ず遠くない日にボランティアとして、皆さんに呼びかけをすることになると
思いますので、そのときはぜひ積極的に皆さんに行ってください。議員の皆さんそして
市民の皆さん、一人でも多くの方に行っていただきたいというふうに考えておりますので、
よろしくをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

3番朝長議員

○3番（朝長 勇君）〔登壇〕

今の答弁を聞いて非常に安心しました。ぜひ皆さん力を合わせて、被災地の支援に取り組
んでいきたいと思えます。

それではこれで私の質問を終わらせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、3番 朝長議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、5分程度休憩をいたします。

休	憩	9時55分
再	開	10時01分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、7番 池田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、7番池田大生の市政事務に対する一般質問を始めさせていただきます。

まずもって4月に発生しました熊本地震において、被災された方々にお見舞いを申し上げます。

今回の地震を受け、災害時の対応や支援のあり方などについて、さまざまな検証や防災対策等の議論も行われております。緊急時には官民連携は非常に重要であります、日頃の訓練があつてのことと思います。

そこで、さきの議会答弁で市の新規採用職員に消防団への加入をとのことでしたが、現在どのようにされているのか、また、現状についてお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

新規採用職員についての消防団の加入ということでございます。現在、少子高齢化によって消防団員の確保が非常に難しいという状況の中に、地域住民の身近な存在である市の職員については加入を勧めております。新規採用職員については研修の中で、消防団の目的あるいは組織、活動内容等の紹介をし、まだ入っていないという団員もおりましたので、そういう職員にはついては翌年度入団するようというところで勧めてきたところであります。

現在の状況でございますが、市の職員381名おりますが、消防団に加入をしておる職員については115名、30%でございます。うち男性が96名、それから女性が19名というような状況にありまして、特に33歳以下、これは33歳と特定するわけではありませんが、一つの目安として33歳以下の職員については特段の理由がない限り入団をするようというところで市のほうからお願いをしております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

30%が入っていただいているということでございます。いろんな緊急時に本当に訓練等においてですね、いろんな対応等をしていけるので、またコミュニケーションもとれていくので、また今後もぜひ消防団員の確保ということでお願いをしたいと思います。次にまいります。

平成 13 年 10 月に開設された武雄市シンガポール事務所についてお尋ねいたします。日本自治体等連合シンガポール事務所と認識しておりますが、当初は自治体運営型通信販売サービスのさらなる展開も視野にあったと思いますが、確認になります。事務所開設の目的と事業についてお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

おはようございます。お答えいたします。

シンガポール事務所は、加盟自治体の特産品を A S E A N 諸国のほうに売るというための販路拡大。それから、同じく加盟自治体のほうに外国人観光客を誘致するというインバウンドでございますね。それを目的として平成 25 年 10 月に開設をいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

平成 25 年 10 月に開設ということで今答弁いただきましたけれども、シンガポール事務所の、事務所の環境といいますか場所、広さ等についてわかればお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

お答えいたします。今つぶさに平米数をちょっと記憶しておりませんが、あまり広くございません。ただ、ほかの自治体といいますか、いろんな事務所が集まったビルの中の一室をお借りしております。そして会議等につきましては、相互共有できる会議室があるということでございまして、こういった表現を方がいいのか、あまり広くない一室であります。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

私も写真というか市長のブログの中の写真で、ちょっと一室写ってた分を見たことがあるぐらいですけども、とてつもない広さというほどはなく狭い中でいろんな仕事、たくさんの案件を抱えられて頑張っておられると聞いております。書類等の整理も含めて、見た感じ若干手狭だなという印象を持っておりますけれども、事務所と住んでいるところは別になるんですよ。

あと、設置時の——開設時の加盟自治体、関係団体についてと、冒頭申し上げました自治体運営型通信販売サービスの展開も視野にあったということでお尋ねしましたけれども、自治体特選ストアは当初 17 自治体からスタートし、40 自治体ぐらいになるだろうという答弁

があっておりましたが、設置時の加盟自治体、シンガポール事務所を含め向こうの加盟自治体団体と自治体特選ストアの現在の状況はどうなっているでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

まず、先ほどの広さでございますけど、2坪強ということでございますのでお知らせしておきます。

ただいまの御質問にお答えをしたいと思いますのですが、シンガポール事務所開設にあたりましては、武雄市が中心ではございますけども、ほかの市町の方とも一緒に周辺の自治体等々のほうにお声かけをしております。その中に自治体ストアの皆さん方も当然いらっしゃるということでございまして、開設当時は7自治体でございます。現在は4自治体という形になっております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

事務所の広さは2坪強、約8平方メートルぐらいですね。今シンガポール事務所の加盟団体数をお答えいただきましたけれども、自治体特選ストアについてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

自治体特選ストアにつきまして、ちょっと御質問をお聞きしておりませんでしたので、6自治体という形だけお答えしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

シンガポール事務所の加盟自治体が7自治体から4自治体。自治体特選ストアのほうは6自治体ということですね、わかりました。

周辺自治体という――自治体特選ストアの件ですけど、シンガポール事務所もですが、周辺自治体に声をかけられたということで先ほど答弁いただきましたけれども、周辺自治体というのは佐賀県内の周辺自治体も含めたところだったんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

佐賀県の自治体も含めたところで周辺の自治体でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

佐賀県も含めたところということでしたけれども、実際佐賀県からは加盟された自治体はなかったですね。そこで、佐賀県では武雄市だけが取り組んでいるということで、これまでの経費といいますか各自治体の負担金についてお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

確認でございますが、議員の御質問が通告いただいておりますシンガポール事務所ではなくて、自治体ストアのほうにお話が進んでいるようでございますけど、私どものほうはシンガポール事務所のほうの負担金という形でよろしいでしょうか。

今ここに、各自治体ごとの、負担金につきましては詳しい資料をお持ちしておりませんが、全体としましては、平成 27 年度で全体の総年間費用額が 2,200 万とかかっております。

各市町の自治体のほうからは負担金をいただいているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

平成 27 年で 2,200 万。すみません、質問の、私の言い方がちょっと悪くて自治体特選ストアのほうに進んでるような印象を与えたかと思っておりますけど、シンガポール事務所のことについてお尋ねをさせていただきます。

2,200 万と、各自治体の負担金というのは、武雄市は決算でも予算でも項目のところに着ておりますけれども、各自治体それぞれ負担金が違うのか一緒なのか、そこだけわかればお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

お答えします。ただいま、加盟自治体のほうでお話をさせていただいて取り決めをしておりますのが、市のレベルでありますと 300 万という形であります。町になりますと 200 万という形にしております。先ほど 27 年度の分の事業費について御説明をしましたが、28 年度につきましては、全体経費の、先ほどの総経費を、事務所等の分の経費についての削減、そういったものを見直して全体経費を圧縮する、削減をするということと、それから各加盟市町のそういった、先ほど申し上げましたような負担金の分についての、応分の負担をお願いするという形で、ただいま申し上げましたように市が 300 万、町が 200 万という形になっ

ております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

28年度については圧縮を今していると、経費をですね。大変な苦勞をされていると思いませんけれども。販路拡大等の当初のインバウンドも含めて販路拡大も、特産品の販路拡大ということでお聞きしましたけれども、販路拡大と拡大の実績とインバウンドに対する費用対効果がわかれば、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

お答えをいたします。まず、特産品関係でございますが、特産品関係の活動といたしましては販路拡大に向けまして現地のデパート、マーケットですね、そういったものの市場調査、あるいはバイヤー等の交渉を行っております。そういった形で生産者と現地の事業者とを結びつけるような形で販路拡大にかかる支援活動をしております。

また、インバウンドでございますが、インバウンドにつきましては現地に旅行会社がございますので、そういった旅行会社を何度も訪問して旅行会社との良好な関係を構築して、そして武雄への旅行商品の造成のお願い、それから立ち寄り箇所をふやすための交渉などを続けておりまして、観光客誘致のために積極的に営業活動をしているということでございます。

そのほかの活動としましては、海外メディアへのPR活動も行っているということでございます。

その結果でございますが、笠原所長ならではの旅行会社との信頼関係も構築できまして、その成果といたしまして、これまで武雄市関連の旅行商品につきましても宿泊ツアーが33件でございます。武雄市の立ち寄り商品につきましては28件。計の61件に及んでおりまして、観光客としましては延べ2,500名以上の送客をしております。年度ごとに見てみますと、だんだんとふえてきているという状況でございます。そのほかにも商品造成はしましたけれども、最終的にツアーが催行にならなかったというところは、またそのほかにもございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

武雄関連だけで28件ですか。年間61件ですか。年間ですよ。（「延べ」と呼ぶ者あり）延べです。佐賀県全体で見ても27年の実績といたしまして、佐賀県に泊まった数なんですけれども、27年で19万9,950人泊と、27年の実績です。これだけの方が海外から来られております。

その中にシンガポール、タイから合計いたしますと、約 6,600 人ほどの方が佐賀県のほうにシンガポール、タイの方が来られております。また、韓国、中国、香港なんかは率で言っ物すごい数なんですよね。合計するとほぼ 80%ほど、70 から 80%を占める、全国的に見ても中国、台湾、韓国、香港、これを見ただけでも 65%ほど来ておられます。そちらのほうにも誘客等かけられていると思いますけれども、対象のところを考えていく必要もあるんじゃないかなと思っておりますけれども。

今後についてですけどね、10 月で 3 年を迎えようとしております。平成 25 年に 92 万円、26 年、27 年に 144 万円、これが武雄市の負担金でございます。今年度 28 年度予算では 300 万の運営協議負担金が計上されております。現状としても 7 自治体から 4 自治体に減ってきた中で今後ふえていくのか減っていくのかわかりませんが、減っていく中においては経費が増していくという現状がございます。そういう中で実数としては、今後インバウンドは伸びていく可能性はあると思いますけれども、インバウンドの効果は非常にはかりづらいところでもありますけれども、景気や為替等などに左右されるところで非常にはかりづらいと、誘客も難しいと、その中で伸びていくかもしれないと。その中に今後武雄市単独になってもやっていくのか、この事業ですね、シンガポール事務所の事業をやっていくのか、その辺のところ、シンガポール事務所じゃなくてこちらのほうからも県とかいろんな周辺自治体と一緒にやっていくことも考えられると思いますけれども、その辺について市長のお考えをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

まず、この加盟をいただいています協議会の加盟団体につきましても、課題としましては今おっしゃっていただいたように、今後やはり新しい加盟団体を勧誘させていただいてふやしていくということで、できるだけ各市町にしましても負担が少なくして効果を上げるという方法をとるべきではないかという形で話を進めておるところでございますので、今後とも各ほかの市町の団体とも含めて協力をしながら、そういった加盟団体をふやしていくという努力をさせていただきたいというふうに思っています。

シンガポールにつきましても、ASEAN 諸国のやはり拠点という形になっておりまして、やっぱりビジネスの中心でございますので、シンガポールで現在のところやはり営業活動といたしますか、そういった活動をしたほうが効果的であるという形になっています。

特に今後につきましても、インバウンドにつきましてもタイも含めて強化をしていきたいということでございますので、しばらくはここで活動をさせていただきたいという形になっております。

今後につきましても状況が変わり次第、その都度加盟団体のほうと協議をしながら進めて

いきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

これからの地方創生の時代、大事なのは地域の中で経済を回す。あとは外から外貨を稼ぐ、そういったところが大事だと思っております、そういう意味でインバウンド事業というのは私は今後非常に大事な事業になってくると思っております。

先ほどありましたタイについては佐賀県も力を入れております。韓国、中国に加えて、まさに先ほど朝長議員の質問にもありましたけれども、ほかの自治体と横並びではなく、武雄がやはりそこは先んじてシンガポールを中心に東南アジアの送客に力を入れていきたい、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

ほかの自治体より先んじて行っていきたいということでございますけれども、これ井上部長より答弁いただきましたけれども、参加自治体をふやしていくための努力をやっていくと。経費が少なければ少ないほどいいでしょうし、効果があらわれたときにその分費用対効果も大きくなっていくところなんですけれども。逆に少なくなってきた場合の投資金額として見たときも考えなければいけないんじゃないかと私思いますけれども、これもシンガポールを中心としたということは非常にインバウンドの必要性もすぐわかります、県のほうも力を入れておられますので。ただ、投資額に見合うものが返ってくるのか、これも投入されているのは市民の税金から投入をされております。その分のことを考えて今後進めていただきたいと思っておりますけれども。

それと、先ほど特産品の販路拡大ということでございましたけれども、武雄の特産品についてお尋ねをいたします。農家の所得向上を目指して、所得向上だけじゃありませんけれども、武雄はいろいろ取り組んでこられたと思っておりますけれども、レモングラスやイノシシ肉などいろんな農業や商業、観光業などの向上ということでさまざま始められていると思っておりますけれども、レモングラスを初めとするほかトロピカルフルーツとかいろいろあったと思っておりますけど、これらは今どうなっているのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

現在どうなっているかという御質問でございましたので、順々にお答えしたいと思います。レモングラスにつきましては、レモングラスも、それからイノシシ、トロピカルフルー

ツもそうでございますけれども、現在は民間のほうで事業を行っていただいております。レモングラスは農事法人でありますハッピーファーマーズでございます。それからイノシシにつきましては御承知のとおり、やまんくじら武雄鳥獣食肉加工センターでございますね。それからトロピカルフルーツでございますが、トロピカルフルーツにつきましては数年間武雄市のほうで試験的に栽培をしましたが、その成果としましてライチ、リュウガンにつきましては武雄でも栽培ができるということでございますので、このところ商品化に向けて栽培をしていただく民間の方々の公募をいたしまして、市内の若手農業者、武友会のほうが商品化に向けて栽培をするということでございますので、トロピカルフルーツにつきましても、もう現在既にそういった若手農業者のほうが作業をされてるという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

栽培に向けて進んでいるということで、ぜひ農家の所得向上につながるよう進めていただきたいと思います。

次にこども図書館ですが、3月議会でも質問しました。子育て支援と教育は市長の1丁目1番地の政策であると、その象徴的な事業の一つと位置づけているとのことでした。また、基本計画は策定中との答弁でしたが、最終日でしたか、その後でしたか、ボックスのほうに入っていたような気がいたしますけれども、武雄市こども図書館建設基本計画(案)が提出されておりました。案とのことでしたがその後どのように進んだのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

こども図書館の基本計画でございますが、3月29日から4月11日にかけてパブリックコメントを実施いたしまして、4月13日に基本計画の成案として作成いたしております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

パブリックコメントを募集をして成案として、私がもらっているこの案からすれば中身は若干変わっているんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

提案いたしました案のとおりで成案といたしました。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

案を成案としたということで、じゃあこのまま質問を続けさせていただきますけれども、現状と課題について、また、目的等いろいろ書いてありますけれども、まず、このこども図書館の目的とこの施設を利用するだろうという対象ですね、この点についてお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

こども図書館の目的でございますけれども、基本計画書に子育て環境の変化ということで記述をしております。少子化や核家族化、それから共働き世帯の増加などにより、子育て環境が大きく変化しておりますので、子育てが非常に難しくなっているという現状がございます。市としては、これを一つの重要な課題と捉えておまして、本が身近にあっていろんな世代の方が集える図書館に、子育て応援機能を拡充してこの課題の解決につなげていきたいというのが目的でございます。

それから、対象者をどのように考えているかということでございますが、幼児から小学校低学年までを対象として想定をいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

そしたらですね、幼児から低学年を対象としている子育て機能を、応援機能を持った施設といろいろ書いてありますけど、分けるとすれば教育施設なのか福祉施設なのか、そこを総合的に考えた教育福祉施設なのか、そこをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

教育施設でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

教育施設ということで答弁をいただきました。当然、武雄市図書館・歴史資料館も教育施設でございます。そこで、この現状と課題ということで上がっております利用者の増加による施設のスペース不足ですね、この辺も上げられております。あと駐車場、土日を問わず常に満車状態であると、現状はそういうことですよ。そういう中に新たな施設をつくって

くというときに、今土日に市民の方が停められないという現状もございます。そういう中に、駐車場の対策はどのように考えられておられるのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

駐車場対策でございますけれども、こども図書館の建設にあわせまして、駐車可能台数の増も見込まれるところでございます。あわせて周辺駐車場の確保、それからそこへの案内誘導等についても今後工夫をしていきたいと思っております。

それから、来館者数も少しずつ落ち着きつつありますので、現在改めて必要台数の調査を実施しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

増車を考え、検討していくということですが、どれくらいふえるかその辺も問題になってくるだろうと思っておりますけれども。あと、施設内外の機能として記載をされておりますけれども、先ほど教育施設ということでお聞きをしました。この施設内外の機能ということで飲食スペース、遊具スペースとかいろいろありますけれども、建設をするに当たって、このこども図書館の運営方針としてはどのように考えておられ、また、運営の形態、今後運営の形態をどのように考えておられるのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

運営の方法、形態については今のところ未定でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

運営の方法も未定と、市でつくって市で運営するところも検討中ということですね。わかりました。そしたら、先ほど来館者数のほうもかなり落ち着いてきたということで御答弁されましたけれども、先日の佐賀新聞論説に武雄市図書館刷新3年の記事がありました。皆さんもごらんになられたと思っておりますけれども、この記事を受けてどのようにこの記事を捉えられたのか、先ほど冒頭にありましたパブリックコメントについて、パブリックコメントの結果についてどのように捉えられているのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

パブリックコメントにつきましては、主に集約をいたしますと3つの点が上げられると思っております。1つ目が、いろんな世代の方が子どもと触れ合う場にしてほしいというような御要望でございました。これにつきましては、子どもが楽しく親も楽しく学べる図書館。それから、子も親も遊べ、ゆっくり過ごせる図書館。それから、子育て機能ができる図書館というのが基本コンセプトでございますので、これを設計に生かしていくということになります。

また、ハード面だけではなくてソフト面でもそういった工夫をしていきたいというふうに考えております。

それからもう一つが、先ほど議員から御指摘のあった駐車場の確保の問題。これも意見としてございました。これについては、先ほどお答えしたとおりでございます。

それからもう一つ、総合計画などの市の基本的な計画にのっとって実施すべきではないかという御指摘がありました。

これにつきましては、武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略ということで、いわゆるスター戦略のほうに図書館を中心とした都市力のアップ、それから子育て家庭支援の充実という目標が掲げてありますので、この目標にかなった事業だということで整理をいたしております。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

パブリックコメントの募集をされたと思いますけれども。5件、募集をされて返ってきたのは5件ですね。これね、やはり先ほどスター戦略のほうに総合計画のところということでございましたけれども、このパブリックコメントの市側の考え方については、スター戦略の中に明確にという部分があったような気がしますけれども、スター戦略のところを見たときに図書館を中心としたというのは確かにあります。その辺が見えなかったもんですから。この5件のコメントのうち私が感じたのはですね、1件は子どもだけではなくママも楽しめる場にしてほしいとかそういう意見ですけれども、残りの4件についてはほぼ性急に進める必要がないとか検討してくださいとかそういう意見が多いんですけれども、この辺はどのように感じられているんですか。お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

パブリックコメントにつきましては、先ほどお答えしたような捉え方をしておりますけれども。それから、スター戦略のほうに明確にというようなことで回答をしておりますが、ス

ター戦略の中の2ページのほうに武雄市図書館の集客力、ワンランク上の子育ての事業の基幹的な施設ということで、明示もしております。そういったところで、そのような答えで回答させていただいたというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

スター戦略のほうに書いているということですが、明確じゃないような気がしますけれどもね。

また、北方にも子育て支援センターありますけども、あそこでもさまざまな子育て支援事業等、幼児から低学年向けあっております。私、今幼児から低学年に非常に求められているのは、共働きが多い世代ですね、預かっていただけるところが求められているような気が、私そういうふう感じておりますけれども、目的の部分でいうと教育施設ということでございました。総合的な教育施設ということでしょうけれども、また、図書の部分が入ってきますよね、図書館ということですから。なんか図書館の横に図書館を建設する目的がわからない。今ある現図書館が来場者数が減ってきている中に、あの施設を活用したことが考えられないのかというのは前から言ってきておりますけれども。

また、そういう中心地に集約していく、中心地集約がさらに進んでいくのではないかと、う懸念も私は持っております。そういう中に周辺部対策も含め、今防災面でもいろんな耐震とかなんとか、そういうのも言われている中で、今非常に各地言われているのが自治公民館ですね。各区の公民館の施設等もいろいろ苦慮されております。

そういうところから考えていくのも一つしなければいけないことじゃないかなと思えますけれども、その辺周辺部対策を含め計画の見直しがされないのかお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

先ほど来申し上げておりますとおりですね、子育て応援機能を拡充して課題を解決していきたいということでございまして、既に当初予算でも予算を一部いただいておりますし、事業は進んでおります。この計画の変更というのはございません。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

計画の見直しはないということですが、私も地域を歩いている方と話をするんですけども、まーた真ん中にやーと言う人もいらっしやいますし、図書館そう何個もつくってやーという方もよく聞きます。丁寧な説明も必要ではないかと、パブリックコメントの

応募の件数からしても丁寧な説明が必要ではないかと思えますけれども。

次にタブレットの更新についてですが、これまでもICT教育の推進と更新に向け、検証する協議会設置の必要性についてお尋ねをしておりました。平成26年の小学校導入に当たり、1億2,298万7,550円。翌平成27年中学校導入に当たり9,570万8,736円の執行がされてきました。

端末機器等についてはめまぐるしいほどの進化があると思えます。非常に、更新期を必ず迎えてくると思えますけれども。当初導入したタブレット、いろんな問題がいろいろ取りざたされました。私はもっといいものに更新をお願いできないかと、そういうところでストレスをためないようにですね、そういうことでお尋ねもしてまいりましたけれども。しかしですね、今年度小学生用の1,000台の更新費として7,225万円が予算化されましたが、導入から2年しかたっておりません。今回の更新に当たり、どのような協議、議論、意見があったのか。また、現場の声をどのようにお聞きになられているのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

おはようございます。タブレットの機種選定を含めた方法については、現在使用中の分では指名型のプロポーザル審査会、これを開いて機種選定、それから事業者の選考、これを行ってきているという状況でございます。

その中で、いろんな御議論をいただく中で、専門家の先生を含めてこの審査会の中では御議論いただいていると、その中から今回の予算の執行についても、指名型のプロポーザル審査会を開催をしながら選定を進めていきたいと考えています。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

今回も指名型のプロポーザルということは随意契約ということですよ。最終的に契約となる場合は随意契約ということになってくると思えます。前回のときも指名型についての問題も若干取り上げられておりましたので、それを前のあれを生かしていただいて、ぜひすばらしい機器を選定していただきたいと思えます。子どもたちの教育力向上につながるようにぜひお願いをしたいと思えます。

先日、県でも次期機種選定で学習用パソコンのあり方を協議する専門委員会が開催されます。県立高校ですけれど、1人1台の端末を最低でも3年は使います。1年生から3年生まで使います。その辺を考えてみたときに今回の2年の更新というのは、いろんな問題もあったと思えますけれども早いような気はいたします。その辺も含めて選定していただきたいと思えますがいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

お答え申し上げます。先ほど指名型のプロポーザルで選定をしていくというふうにお答えいたしました。こういう特殊な機器については、単価だけで選定をできるものではなくて、当然その性能等を含めて、あるいは学校現場、あるいは子どもたちの使用状況、そういうものを勘案しながら一番ふさわしいものを選んでいくと、そういうがためのプロポーザル審査ということになってまいりますので、その中で最も優れたものを選んでいきたいというふうを考えております。それから……（発言する者あり）あくまでもプロポーザルに基づいて契約するというところでございます。

それから、このタブレットの1人1台の配付については、武雄市については積極的に進めていきたいという考え方で、継続的に子どもたちの教育、学力含めた振興のためには不可欠なものということから、継続的な利用を進めるためには必要であるというようなことで今回予算をお願いしたというようなことでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

厳正な選定ということで頼もしく思っておりますけれども、本当に教育力向上のために厳しい目で機種を選定もぜひお願いしたいと思います。

最後に、官民一体型学校についてお尋ねをいたします。今年度より5校で実施されているわけですが、現在の状況についてお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

官民一体型学校づくりにつきましては、5校で今年度から実施していただいております。5点だけ申し上げて、その現状を申し上げたいと思いますが。

1つは、御存じのとおり各小学校区で区長会長さんを中心とした学校づくり協議会を設けていただいて、取り組みの先頭に立っていただいたと。実際に学校まで訪問してごらんいただいて、我が町の学校はどうするかということを会長として考えていただいた、これが非常に大きな成功の一つだと思っております。

2つ目は、各学校が、例えば今度の3校は昨年秋以来準備を進めて、本当に前向きに子どもたちのために何を取り入れることがいいのかということで、4月から順調にスタートしていただいたと、そういう先生方の御努力があります。

もう一つは、高濱代表直々に各小学校区で講演をしていただきました。そして今話題にな

っているのは小学校低学年あたりまでの教育の大切さ、お母さん方を支えることの大切さを言っていたいただけであります。

それから4つ目としましては、御存じの花まる学習会の西郡さんと前原さんに来ていただいておりますが、本当に地域にも入っていただいて先頭に立って汗水垂らして、先生方と一緒に考えて取り組んでいただいているということがございます。

それから、5つ目といいますか、東川登小学校、武内小学校の取り組みが大変参考になっているということでございます。一例挙げますと、卒業式で大きな声を出す練習をさせる必要がなかったというのがございます。一人一人が本当に確かな存在として育てているという学びにつながっていると、そういうことで現在の状況を、本当に頑張ってもらっていただいている地域の皆さんの御支援に感謝を申し上げたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

ただいま5つほど教育長のほうから御答弁いただきましたけれども、今年度から始まった3校ですね、非常に前向きに取り組んでこられたと。

私も先日、朝日小学校のほうにちょっと見学に行ってみましたが、ちょうど1年生がスタートしたばかりだったのか、その日からスタートだったのか、その辺あれだったんですけど、1年生も本当にスムーズに入っていました。かなり、先ほど言われましたけれど区長会を中心として地域の方々、非常に準備をされてこられたんだなと私見て感じておりました。後でいろいろお話を聞いたんですけどもね、本当にスタートするまでの苦労はたくさんあったということで、公民館が主体となって地域の方々と一緒にやってこられたということでございました。

そこですと、地域支援本部、区長さんを中心とした地域の組織なんですけれども、これについて教育委員会としてどのような携わり方というかですね、かかわり方をもっておられるかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

地域支援本部というのが、今年度からは地域学校協働本部事業という名称で、文科省の行政的な名称が変わっておりますので、そういう形をお願いしておりますが、全校区にお願いをしているところでございます。

我が町の学校という意識を持って取り組んでいただくというのが最大の狙いでございます。そしてこれは全国で進めたいと言われている施策でもございます。ですからそういう意味で、そのために朝の学びの支援が一つの花まるの学びでの支援でありますし、従来させて

いただいているような安全指導であったり、読み聞かせであったり、いろんな学校支援のトータルとして、我が町の学校がどういう関係にあったが一番いいのかというのを考えて推進していただきたいという思いであります。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

我が町の学校ということで、非常に校区の皆さん、非常に自分たちの学校、出身校にいたってはですね、熱い思い入れがあられると思います。保護者という立場から出た後ですね、その学校に携わっていくという、本当に久々学校に来たばいということで朝日の方もおっしゃられる方もいるということで、本当に花まるをつけて子どもを育てていこうということで力強く取り組んでおられましたけれども。地域支援本部というのは自主的な取り組みと、地域がやっていこうさというやる気を持って自主的に取り組んでいく組織だということで思いますけれども。また、以前は実施校を指定される時にですね、次年度の準備校と、決定じゃないですけども準備校ということで指定をされておりましたけれども、来年以降の計画はどのようになっているのでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

来年度以降の指定につきましては、毎年毎年区長さん方には御説明するのも非常にお忙しい中に荷掛をしているというのは間違いないことでありまして、今後どの時点から、できるだけ早く入っていただきたいんですけども、事情もありますのでどの時点から始めるということを、今年度の秋ごろまでに話し合っていたきたいということでお願いをしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

それでは、今あったように準備校としての指定はまだ、そういうものはやってないということですね、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

思いとしてはすべてが準備校というつもりではありますけれども、特別にそういう形での指定はしておりません。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

これは本当に朝日の方も言われておりました。大規模校で企業も協力していただける、保護者も自主的に割り当て表をつくって保護者の方も参加していただいている、地域の方も協力をいただいているということで、非常に地域一丸となって年間9回ほど、本当に1回の会議が時間もかなり重ねられて実施をされてきておられます。

一つ最後に、これですね、自主的に手を挙げるということになりますけれども、やらないというところはやらなくてもいいんでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

そういうことは考えたことございません。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

全小学校で実施をしていく方向と考えられているということですね。強制するのもどうかなどという思いもいたしますけれども、これで池田大生、一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、7 番池田議員の質問を終了させていただきます。

〔10 番「議長、議事進行。」〕

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）

すみません、先ほどの質問の中でですよ、指名型のプロポーザルということは随意契約ですという発言があったかと思うんですけど、それについて遠回しにいろいろ話を今さっきされましたけど、聞いている方はっきりわからないと思うんですよ。指名型のプロポーザルイコール随意契約って思われるのでいいのかなのか、そこんところちょっとちゃんと精査したほうがいいんじゃないかなと思うんですけど、よろしくお願いします。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。（「答弁するわけいかんけん、議長が言わんば」と呼ぶ者あり）

ただいまの議事進行についてですけれども、一応追加議案として予定もされているということもございますよね、購入契約については。ですからそこら付近、これ以上突っ込んだら一応止めなきゃならなかったわけですけども、そういったことは……（発言する者あり）一方通行で言われましたので……（発言する者あり）諸岡部長に今からさせます。静かに。

補足説明、いいですか。

諸岡こども教育部長（発言する者あり）。静かに、静かに。私の裁量権で進めております。

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

今回の事案につきましてもプロポーザルを行いまして、事業者の選考をやるということで進めていきたいというふうに考えております。

このプロポーザルというのは先ほども申し上げましたように、それぞれの事業者が持つておられる機能面あるいはノウハウ、そういうものを含めた提案をしていただいて、この中から最もふさわしい、いいものはどれかと、こういうものを委員の中で点数をつけながら選定をすると、そういうことで事業者の選定をいたします。その事業者と当然この事案につきましては、金額的に物品購入の金額2,000万円以上を超えてまいりますので……（発言する者あり）契約事案として御審議を賜るということでまいります。以上でございます。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

部長、体質が違いますと、それを言ってください。

静かに。（発言する者あり）

○諸岡こども教育部長（続）

説明いたします。競争性のある随意契約ということになります。（「なんて」と呼ぶ者あり）

（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

何か質疑のような形になっておりますので、そこだけは注意して。今、諸岡部長の補足説明がございましたけれども。（発言する者あり）（「事務局がきちんと議長に議事進行の内容ば伝えてちゃんとさせんば」と呼ぶ者あり）静かに。

部長、これ以上何かありますか、補足説明です。（「競争性のある随意契約」と呼ぶ者あり）

○諸岡こども教育部長（続）

説明いたします。調達方式についてはプロポーザル、契約方式については随意契約と、こういうふうになってまいります。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

ここで、モニター準備のため、10分程度休憩をいたします。

休 憩 11時04分

再 開 11時13分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、16番宮本議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。16番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。これより、16 番宮本栄八の一般質問をさせていただきます。

その前に保健指導を受けまして、最初は、うるさいと言っただけなんですけども、思っていたんですけども、今回、もう 60 ですので絶対やりますということで一応宣言して 15 キロぐらい痩せたことで、今はちょっと感謝をしているんですけども。皆さんもウォーキングとかですね、そういうのに取り組んでいただいたらというふうに思います。一言すみません、時間がないときに。

○議長（杉原豊喜君）

質問。

○16 番（宮本栄八君）（続）

質問ですけども、きょうは 8 項目についてお尋ねしていきます。

最初は、財政政策です。まず最初にですね、合併特例債の利用計画の提示をちゅうことで。本来、合併特例債を 86 億から 173 億にふやしたときに、本来でいえば新市建設計画の変更に伴う改定計画を示さなくてはいけなかったと思うわけですね。でもまあそれはありません。それで、合併特例債の利用計画だけでも必要じゃないかというふうに思っております。この間は合併特例債の 55 億から市庁舎の 35 億引いたら 20 億で、道路予算などを入れれば箱物はできないということで、この間言いましたよね。特例債、過疎債、公共事業整備基金などを含めた中で計画を出したらどうですかと。でも、ちょっとそれを言っても今の状態でも出ていないわけだからですね、今回はその最低、今の合併特例債の残り 20 億を何に充てるのか。今のところ不明なわけですね。でも、なんかこども図書館の 3 億円ですかね、何かわからないですけども、そこは合併特例債で入れるちゅう話も聞くんですね。だからそんなのは今のところないのに、なんでそんなのが出るのかなということもありますので、合併特例債の利用計画について明確にしてほしいということでお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

合併特例債の利用の計画をとということでございます。合併特例債を含めました地方債については毎年、これは 12 月に国から地方債計画ということで示されております。また、借り入れの際につきましては、県の同意といったものが必要とされます。従いまして地方債の運用にあたりましては、現実問題といたしまして予算の補正等をこれまでも 27 年度までもお願いをしてきたという経過がございます。これは地方債計画が毎年度更新されたり、あるいは先ほど申し上げましたとおり県の同意を必要とするということで、あらかじめ地方債、これは特例債も含めましてあらかじめ計画を立てて、それを公表するというところまではなかなか

現実問題としては困難であるという事情がございます。従いまして、計画そのものも現在立てておりません。運用にあたりましてさまざまな事業計画が出たりしますので、そういったさまざまな事業、それから地方債計画で示されますさまざまな地方債、こういったものも充当率の変更される、あるいは新たな起債の制度が提案されるといったこともございますので、時々に応じて起債の運用をしているというのが現状でございます。現実問題としまして計画を立てて、それを公表するというにはできないというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

もともと合併特例債は新市建設計画のときに 83 億ですか、8 億ずつ使っていて、それを出していたわけですよ。だから今後、あと 5 年間延びた中で、庁舎で 30 億使います、残りいくらずつ使いますと、それは大体学校にあたりますとかそういうのはつくらなくちゃいけないと思うんですけども、ちょっとここは議論しても先進みませんので、一応そういうようなことはそれを提示してしないと、いや、合併特例債、先物食いではいかんと思うわけですよ。そういうふうに思います。

次は、ふるさと納税の件です。ふるさと納税の取り組み強化をということで、以前にも言っているし、ほかの議員さんも言うておられますけども、ふるさと納税はある意味返戻金を利用したまちづくり事業というようなこともあると思うわけですよ。

それで、まず集め方についてです。

よその自治体というのが、私がちょっと武雄市に寄附すると公職選挙法違反ということで、よそにちょっとしながら研究しているっていうことを前に言ったと思うんですけども、ことしは何もまだ寄附していないんですよ。でも、いきなり送ってきたんですよ。（資料提示）あら、ことしとらんとってこう思ったわけですよ。でも中を見ればちょっとした粗品と何に使いましたということとクオカードも入っているんですよ。ということは、これは何を意味してるかという、報告みたいだけどもたしてくださいという、サンプルというか試食品をまずやって、ことしまた頼まんですかというようなことと思うわけですよ。

そしてそれが、自治体じゃなくて物産館というか、そこが事務局みたいなことになっていてそこで機敏に対応しているというような格好になっているのかなと。

だから集め方についても市だけで考えるんじゃなくて、協議会とか民間の人を入れてアイデアを絞って行って、拡大していく方向にならんだろうかと。だから、市の担当者じゃなくて担当者以外の広く知恵を集めて、アイデアを集めてやっていくようにできんかなということで質問します。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

ふるさと納税につきましては、取り組みのほうは効果が上がるように進めているところでございますけれど、さまざまな多くの団体がふるさと納税の取り組みを強化しております。議員御指摘のとおり、さまざまなアイデア、これを駆使してふるさと納税の取り組みを強化するということは必要だというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

協議会是一个の例ですけれども、もっとそこに積極的に、一例挙げましたけども何かサンプルを送ってしてもらおうとかですね、そういう囲い込みっちゃうか、そういうようなことももっとやっていただきたいと思います。具体的内容は、そっちの課。

次に使い方です。

今、武雄市の使い方っていうのを見ると、寄附金事業の上乗せをと書いてありますけれども、例えば観光とか農業の目的で武雄に寄附していただきました。そしたらそれを観光とか農業に入れます。そのかわり一般財源を元に返しますと。武雄市としては助かるんですけども、寄附者からすれば今ある子育て事業に自分が出した分が上乗せされて、これをしましたというのが嬉しいわけですよ、子育てにいった、一般会計に戻されたではあんまり寄附者の意向が反映できないのではないかということで、寄附金の上乗せ事業というんですか、上乗せ活用ということについてお願いしたいんですけども、市のお考えをお聞きます。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

現在の武雄市のふるさと納税は、議員御指摘のとおりでございます、ホームページのほうでふるさと納税のページのほうでも、事業の財源として活用する旨を掲載させていただいております。新たな事業を展開してそれにふるさと納税を充てるというのも、ふるさと納税の活用の仕方の一つの手段だというふうには思っております。

ただ現時点では、武雄市が行っておりますさまざまな事業ございますが、現在充てている事業の多くは武雄市独自の事業あるいは武雄市が独自に展開している事業、こういったものに充当させていただいているという内容でもございます。

新たな事業を起こして、その財源としてふるさと納税を充てるというのは、今後そういった事業があれば一つの手段としては考えられると思います。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そんな格好ですってですね、今度これをしましたというふうなことがやっぱりいいと思うんですよ。多分寄附している人も、財源補正に使われているとはあまり思っていないんじゃないかというふうに私は思います。

次ですね、次は住宅政策です。

住宅政策で、以前市の分譲地のことについて言いました。

また、牟田議員さんのほうも、今度は多久の事例からそういうことを言われたんですけども。また今回出そうかなと思ったのは、佐賀新聞に経済状況をずっと書いたやつがあるんですよ、何か月に1回。その不動産のところを見れば、分譲地について佐賀地区は平年並み、鳥栖地区は横ばい、唐津地区は好調、伊万里地区も好調と書いてあるとですよ。(発言する者あり) そのあと武雄地区はなんて書いてあるかということ、武雄地区の分譲地は人気の地区で供給がなく不調と書いてあるわけですよ。だから結局武雄地区も分譲地があれば良かわけ。スーパーで欠品してから、売り上げ機会の損失みたいな格好にある程度なっているんじゃないかと。そういうことで市の分譲地ですね。多久、嬉野、有田など、こういうんで嬉野も結構大きく販売しております。それでまず武雄市として、分譲地の販売というのは結局どういうふうに考えてあるかをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

市が分譲地の開発あるいは販売、こういった事業を行うという計画につきましては、現在のところないというふうにお答えをさせていただきたいと思っております。確かに住宅の供給の市場の状況というのは、刻々と変わるものだと思っておりますが、行政として現時点では、分譲地の開発、販売に乗り出す計画はないということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

これはもう方針の問題だからですね、市長の方針の問題だから、これについては多額の費用もかかるし、売れ残りの責任もあるからですね。ただ、分譲地の販売はできなくても、民間分譲地開発の支援とかはできるじゃないかなと思うわけですよ。例えば工業団地とか、固定資産税の減免とかするですよ、減免っていうけど。その人から入ってきたやつをお返しするというような形で、現金は要らないと。現金レスですよ、はっきり言えば。払ったやつを次年度返すような格好ですね。だから、そういうのは応用できるんじゃないかなと。

また今水道引き込みをすると、各分譲地に水道引き込みの分担金というのをずっと取られるんですよ。それはちょっと水道会計のほうのあれになるからいかんですけども、固定資産税の減免なんかは実際現金は要らないわけだからできるんじゃないかなと思いますけども、

この辺についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

分譲地の開発に伴うインセンティブということでございますけれど、具体的に例を挙げられました。現時点ではそのような施策を行うという予定はないということでございます。分譲地に限らず、個人での民間住宅を建設させるといったいろんなケースもございます。そういったものを制度化するというのは、かなりのエネルギーも必要になるかと思えます。現時点では、御指摘のようなインセンティブ、これについては計画はないということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

私も最近思いついたからですね、今からこうして少しそんなことも、例えば 20 戸以上とかそういうのになれば、そういうふうにするとか考えていただければと、きっかけづくりということで提案しました。

次は、もう一つの、私が気になる住宅がらみっていうのは、毎回言っております市営住宅の建てかえの件ですね。長寿命化計画で建てかえる、一戸当たり 1,200 万。500 戸建てかえれば 60 億になりますよと。庁舎よりも大きな金額になりますよと。ずっと徐々に建てると言うんですけども。ただ、その一方では住宅マスタープラン、住宅の建てかえを 1 年間やめて、マスタープランをみたいなのつくりました。

その中で今後は戦後の住宅供給ということではなくて、セーフティーネットですよ。母子家庭とかそういうのもあるかもしれないですけども。セーフティーネットとか、そしてその民間の力を利用して、低減化させるというようなことが柱になっているわけですよ。

それと現状の問題、今の施設が路上駐車が多いとか、例えば昔のやつは風呂釜はないから、風呂釜を入れる人がつけんといけんと。そしたらそこまでしたくないということで、例えば西杵住宅とか結構空きがありますよね。今どき自分で入居する人、風呂釜を買ってつける人はいないわけなんです。だからそういう矛盾もあるんです。だからそういうのも含めてですよ、この間山下部長が古いのは随時建てかえと。随時建てかえると 60 億にってしまうんですよ、トータル的には。だから、その随時改築の前にトータルマネジメントで、例えば県営住宅って最近新築なんか見たことないですよ。ずっと補修だけです。

例えば武雄にも、市営住宅と県営住宅が並んであります。赤尾住宅っていうところがあって、そこに県営住宅もあります。そこを建てかえるかというのを廃止します。ですよ。だからそういうふうなことにしているわけなんです。だから今、大野住宅をやりますけども、ま

だ唐原とかずっとせんといかんし、さっきの設備不足でいうと山下、第2山下、西杵とかになるわけなんですよ。だから結構かかっていますし、この赤尾はなんでしないかという、昔の鉄筋コンクリートにつくってあって、外側は60年か70年のあれがあると思うんですけども、だいたい設備は15年しか持たないわけだからですね、だからその物すごいギャップがあって、入居者に対しても不便をかけているというんですかね、そういう現状もあるわけなんですよ。

それで、戻りますけれども、この60億に随時建てかえじゃなくて、せつかく住宅マスタープランで目的の集約化、民間活用というのを言うのであれば、そこをこの際、随時建てかえじゃなくて、全体の位置づけ、意味づけ、改築方法、それを考えていただきたいと思えますけれども、この辺についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

議員さんの先ほどの質問でございますが、今は、市は武雄市公営住宅長寿命化計画に基づいて、建てかえ、及び修理も計画に基づいて行っております。それで、この長寿命化計画は、平成22年度から31年度までの計画であります。その中で、耐用年数が過ぎた、要建てかえ住宅については、大野と高野、小原までが31年度までの計画の中にうたっています。それで、次期長寿命化計画を平成32年からおおむね10年間ぐらいの長寿命化計画を立てるわけですが、それを平成30年度に策定する予定でおります。その中で財源、社会情勢の変化等がございます。本当に必要な戸数等を含めまして、整備の計画を立てたいと思えます。現時点では、民間活用のごことは考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

古川部長、最初の答弁で難しいこと言えますけれども、30年のそこではなくて、私はこの小原と——もう大野のほうはちょっともう無理と思うからですよ、次の小原と高野の統合移転建てかえのところではもうそういうのもですよ、計画を作るのではなくて、あらかじめこういう方向でいこうと、いうふうなことはしていったほうがよくないかなと思えます。それと民間は全然考えていないと言うけど、ウェルカムハウスは民間を利用しているんですよ。

だからあれは最初だったから、ああいうふうな格好で、礼金とか取るような格好ですけども、もっと厳密に考えていったら、もっと土地を市が貸してくれれば、家賃を下げてもいいですし、逆に言えば市が補償してくれれば、ほとんど利益がなくてもいいわけですよ。してもいいですよ。マイナスさえなければしてもいいという人がたくさんいると思えます。

だから、そんなことも考えていっていただきたいし、今、母子家庭の住居を、空き家じゃなくていいところに住ませてよかでしょう、もっと。市営住宅の。というふうな私は発想を持っているとですよ。だから本来必要な人に必要なものを必要なだけ、そのいうように民間のアパートでも1室600万ぐらいできて、結構高収入の人しか住めない状態もあるわけですので、よろしくをお願いします。

次に、道路整備のことについてお聞きします。

大体2つぐらいありますが、今回ちょっと質問の聞き取りで自分の認識間違いというのありまして1個になっております。それで、高野南北線の整備というのはやっぱり関心高いですよ。この間、ある商工会がらみの懇親会ですね、その人は山内の方ですけども、まず私に尋ねられたのは武雄バイパスのところですね。いつできるとねと言うそうですね。そこまであんまりみんな知っとんされてことで。でもただ聞かれた。いや、29年でしょって、29年って来年じゃなかつて。あららと。そいぎその先はあんたいろいろ言いよったばつてん、どがん結局ないよとねって。いや、一応、また北方バイパスば承認を受けて先に進むごとと言いよんさですもんねと。とりあえず、高野南北線のでくっけんが、それでいくぶんはメガネ一番のところもはけるとじゃなかですかということちょっと答えたんですけども。それにしても、今から間に合うねんごといんさあわけですね。そういうふうに関心が高かったと。そういう答えもしたりして、それを聞かれたと。それで武雄バイパスの出口変更の効果を発揮せんばいかんと。そういうことで、高野南北線がある程度出口変更に伴う、またそこからずっと二又まで数珠つなぎになっては意味がないからですね。せんといかんと。そういうことで、小楠水谷線並みのバイパス同時開通をということで考えております。そして、いやそれ金かかろうもんで言んさあですよ。そこを主要道路で整備してですよ、その45%の自治体負担を過疎債で全額入れる。そしたら、市の負担ゼロで、大きな道路ができることにはなるんじゃないかということで、そういう場所はここですけどもね、いつも。もっとも出した地図をずっとあくまでも出していますけども。これが今、保育所ができようとしているところの水谷線ですよ。こっちが今、まだ農道であつて、今度南北線に指定された場所なんですよ。

だから、距離的にもこっちのほうがひよつとしたら短いんじゃないかなというふうに思うんですけども。そしてここを整備しておけば、結局こっちに南北線だからってここで終わっちゃいかんから、多分将来的にはここまで来るんじゃないかなと思うもんでですね。そのためにも、中心のところは入れとつたほうがいいんじゃないかなと、そういうふうに思います。そういうことで主要道路にして、そしてその裏負担を過疎債に入れる、ということは0円でこういうのができるということで、皆さん助かるんじゃないかなというふうに思いますけども、この辺についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

市道高野南北線でございますけど、この市道は現在の北方中央線沿いの将来的な開発にあわせた地区内道路として位置づけております。それで、小楠水谷線と言われましたけど、市道名は五反田山下線でございますが、のような幹線道路としての位置づけをしておりませんので、そのような整備は現在は考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

幹線道路、地区内道路といったら、また駅前みたいになるとですよ。結局駅の——小楠のところ、地区内道路のかくかくってかくかく道路のごたあことになあわけですよ、はっきり言って。ですよ。地区内道路ば地区外の人が走るという格好になあわけでしょ、はっきり言えば。だからここは考えてほしいし、主要道路にして過疎債を入れんと市の単費にせんばいかんでしょ。それはもったいなか話じゃなかですかね。そして、ここはちゃんと位置づけられる道路ですよ、はっきり言って。国に対しても、道路整備局に対してもちゃんとと言える場所ですよ。違うところじゃないわけなんです、そこはよく考えてですよ、せっかく黒岩さんたちがバイパスを、今ある土地を生かしてしたやつが、生きてこないんですよ、せっかく。そういうことで、よろしくお願いします。

今の状況は、こっちはいつもと変わりませんが、ここは工事がこの辺まで来ております。そういうことで、聞くところによると、今年度にまず路盤をつくって来年表層をするということで向こうは着々と進んでいますので、よろしくお願いします。

次は、市施設の整備方針です。

以前から現庁舎の跡ですね、何かいろんな団体が使いたいということもあって、どうなるんですかということをお尋ねしました。そしたら、もう耐震で危険性があるところは使えないから解体ということでした。そういうことで、その続きとして解体後の跡地はどう活用していくのかということについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

現本庁舎につきましては、解体をするというところまで議員御指摘でございますが、その後更地ということになります。その後、更地の跡の利用については全く白紙でございます、当面は更地という状態で利用させていただきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

更地になるんですね。更地になったときに今は飲食店街の、夜は代行が使えるような格好になってますよね。結局、更地であれば閉鎖せんといかんようになるのかなど。そうすると困ってくるんじゃないかなど。だから、早く計画を立てんといかんんじゃないかなど。しかも市役所付近についてはですよ、この市役所庁舎と中央公園、そしてこのまちなか広場ですよ。まちなか広場もなんでここにこんなぼっかり生まれたかつちゅうと、南国ビルを移転させたんですね。大体その受電設備だけしかかからんのを、全体かけて向こうに行ってもらったんですよ。（「違うやろ、それじゃなかもん」と呼ぶ者あり）そうなんですよ。それで結局ここは、なんかまちの拠点として使いますよと。そして、中央公園と一体化して利用しますよちゅうこともあるわけなんですよ。だからこの辺の、公園のまちなか広場とかその辺についてもどうお考えなのかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

現庁舎の跡地、当面更地ということでお話を申し上げました。具体的に、今後どのような活用を行っていくかということは、まちの中心部にございますので十分な議論、協議そういったものは必要になるというふうに思っております。

新庁舎の建設等特別委員会が議会のほうにございますし。（発言する者あり）協議をさせていただきたいと、お願いをしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

庁舎問題で話し合うのもいいですけど、まずは提案をですね、広く意見を聞いて提案をせんと。だいたい庁舎が移転すると思っとらんけんですね、この中央公園を整備したり、こうしたときはですね。だから前提が変わっているんで、そのの附帯的なことも全体ひっくめて考えるちゅうことが、庁舎を移転したというところの責任の一端かなというふうに思いますのでよろしくお願ひします。

次はですね……（発言する者あり）お静かにお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○16 番（宮本栄八君）（続）

次は文化会館と、白岩体育館です。前市長のときにですね、もう何年も前に秋口に移転先を言いますと、いうことはそれこそ合併特例債するような計画じゃなかったかなというように思っているわけですよ。それが急に止まった、アセットマネジメントをしてから止まっ

た。止まっている間にちょっと時間差攻撃みたいなので、こども図書館がぱっと出てきたと。あららと。なんか話違うよというふうに思うわけなんですよ。それで、この間文化会館のことをお尋ねしました。まずは考えるにあたっては耐震問題があるから、耐震診断をしてくださいとこう言ったわけですよ。そしたら、いやもうしてますって、そうしたら教えんといかんじゃないかなと。まだ私全然聞いてないし、ほかの議員さんはどうかわかりませんが、その文化会館の耐震診断の結果はどうだったのかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

宮本議員からはですね、ことしの3月議会でも同じ質問をいただいておりますので、お答えも同じになろうかと思えますけれども、平成22年度に文化会館については耐震診断を行っております。大ホール棟、小ホール棟、集会棟、成人棟で基準強度を下回っているという結果でございました。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

下回ってる、この間は耐震診断したんですかと聞いたら、下回っていると言われていたんですかね。下回っているならどのくらいですか、危険度的には。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

例えば大ホール棟の1階でございますと、基準強度が20.6ニュートンパー平方ミリメートルですか。この20.6が20.0。それから2階になりますと基準強度の20.6が17.4と、そういった結果です。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

それが危険度が高いのか低いのか、ちょっとお答えなかったですけども。まずは、そしたらもう一方の体育館のほうの、白岩体育館のほうの耐震のほうの診断の予定はどうなっているんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

白岩体育館の耐震診断でございますけれども、耐震改修促進法では白岩体育館は耐震診断

の実施義務のある施設には該当しておりませんので、診断は行っておりません。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

その基準がないから、そしたらずっとそのまま使うんですかね。その辺を含めてですよ、そこがないと白岩はそのままでもいいよと。文化会館の補強だけでいいんじゃないかなと、こうなってくるですよ。この辺について教育長の考えはどうですか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

文化会館の耐震診断だけで 2,000 万強の費用がかかったんじゃないかと思っていますが、いずれにしても多額の経費をかけて調査をすることと、存続、途中でお話にあったようにいろんな話が出てきたのも事実でありました。今の長期的な計画の中での進め方になるというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

今の長期的な進め方って、それは何なんですかね。結局危険だから、スポーツとか文化を見る人に危険だからできるだけ早く建て替え等せんといかんとか、補強せんといかんということなんですかね。このまま様子見ということなんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

ほかの施設等の活用の仕方、例えば避難施設であつたりとかいろんなものを考慮しまして、その中での現在の判断をしているというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

現在の判断というのは、そのまま黙認しているっちゃうことが現在の判断ですか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

さっきから聞いていますとですね、なんか市が全部不作為でほったらかしにしているような、そういった誤解を見られている方に与えてしまうかなと思いますんで、この話も言って

おきますけども、我々放置しているわけではなくて、とにかくやっぱり安心・安全は大事だと。これについてはきちっとアセットマネジメントの中で判断をしていきますので、そのあたりはしっかりと御理解いただければと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

アセットマネジメントって、個別計画はないと言われたじゃないですか、前。ただ全体的に人口減少社会の中で、今の状況を見て集約していかんばいかなですよちゅうような話なんですよ。だから、ずっとアセットマネジメント話でずっと引っ張られとるわけですよ、はっきり言って。だから、もういよいよそれはもういいんじゃないかなというふうに思っとるわけですよ。それで結局、この間武雄区から配られてきたハザードマップ、いろんな緊急避難場所が3カ所あるんですけども、最終的には指定避難場所の文化会館に来んといかんとなつとるとですよ。その最終的に集まる文化会館の指定避難場所が、いや、耐震はやばかと、そういうのはいかんでしょということですよ。だから、いつするにしろ、方針は早く出さんといかんとやなかですかね。放置しとるとは言いよらんですよ、ただ見えんちゅうことですよ、はっきり言えば。だからそこは、ちゃんと前の市長も大ホールは危ないですよとも言ってたですよ。そして、まだ文化会館も今の施設を維持する費用よりも、つくりかえたが安いですよちゅう話までしよったわけですよ。だから、ちゃんとそこまでしよたら、ちゃんとやってもらわんといかんなちゅうふうに思っております。次にいきます。

次は、都市計画道路の今後ということで、都市計画道路の見直しが今行われております。

そして、どんな格好かというふうに言いますと、まずコンサルタントに発注してあります。そして課内で検討してあります。今県との協議をしておりますけどもまだなかなかまとまらないと。そいぎ、例えばこいです、このまま進めば、これが終わって都市計画審議会にかかってそれがスタートすると。そいぎ、市民はどこでどうなるんですかということになるわけですよ。特に今回私が言うのは、今の都市計画道というのは、その区画整理に伴う街路事業のような格好ですよ、ずっと25年間ある意味固定した範囲内でずっとしよったわけですよ。ですね。でも今度もう3年、本当はもっと早う、23年に終わらんばいかんとばってん、区画整理がもうすぐ終わります。

そしたら今度は、この田の字型を2つ集めたようなところをどうするかちゅうことになってくるわけなんですよ。それでこの間の話では、今西浦を商工会議所のところまで行っています。これは中野御船山線という、御船山のほうから中野のほうにぐっと行くんですけども、私はもうこっちは遠いから、小学校の前だけでも広くなっていけばいいかなと思って、こっちは、商工会議所の次はこっちに行きますかということをお尋ねしたところ、もうこっちはしませんということだったですよ。こっちはしませんと。あら、そいぎ小学校もせつ

かく入り口こっちつくったのに利用できんなど。そしたら、本来の中野御船山線のほうの上のほうに行くんですかと、そいぎこれも小学校に西側が少し近いので、そっちから出てもいかなちゅうふうに思ってたわけですよ。でもこれもしませんと言うわけですよ。まあそれはせんとはせんていいですよ、方針だからですね。だから、今度はちょっと言えば大きく市のほうも決断しましたと。区画整理以外のところでは、ゼロベースで考えているのかなちゅうのはわかるわけですよ。ただ、これが市民の目に触れんところで、例えばこれ1本なくしましよって、これだけになりましたって、それ困るわけですよ。この2本の機能を1本に集めるとかですよ、まあいろいろ考えはあると思うわけですよ。その2カ所を1カ所に減らして、2本の統合を1カ所、県道に沿ってつくるとかですよ。そいけん、もっと広く話ばせんばいかんと思うわけですよ、今度ですね。だからそこで市民の声を生かして、今度都市計画区域を山内、北方にも広げたわけですよ。だから両方に1本ずつあってよかわけなんですよ。だからさっきの南北線ば、都市計画道路にしてもよかし。そういうことで、市民の意見を生かした見直しができんかちゅうことをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾技監

○松尾技監〔登壇〕

議員がですね、どうも都市計画事業ということそのものにちょっと誤解というか、独自の解釈をされているようですので、ちょっとここで訂正というか……

〔16番「いや、質問に教えてくださいね」〕

はい。詳しくちょっと説明させてください。

〔16番「いやいや、質問に教えてください」〕

先ほどのですね。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○松尾技監（続）

南国ビルの件についてですね、まちなか広場っていうのは確かに区画整理でつくりました。あの区画整理でまちなか広場をつくる時に南国ビルを移転されたわけですけど、わざわざ移さんでいいような南国ビルを移動させてまちなか広場をつくったというふうに私は聞こえたんですよ。それは区画整理の中でですね、換地の中で南国ビルは市役所前のあの部分……

〔16番「ちょっと時間なかもんで、それはまた別に言われんですか」〕

という道路にかかったから動かしたわけであって……

〔16番「いや、違うんです」〕

換地上で動かした。

〔16番「いや、あそこに、中心に広場をつくろうと」〕

○議長（杉原豊喜君）

静かに。（発言する者あり）

○松尾技監（続）

だから、これ市民の方いっぱい見られてますので、何か市民の方誤解されたら困りますので。

〔16番「いや、誤解じゃなかですよ」〕

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○松尾技監（続）

私から見たら、議員が誤解されているというふうに見えます。ですから、南国ビルを移転させたのは道路にかかっていた、それで区画整理で動かしたんですけど、区画整理の中でそこにまちなか広場をつくりたいという、換地上ですよ。

〔16番「そういうことでしょ。」〕

南国ビルを動かさんでいいのを、動かしてあれをわざわざつくったっていうふうには聞こえたもんですから、ここで訂正させていただきたいと思います。

〔16番「そうでしょ、まちなか広場つくりたいからでしょ」〕

○議長（杉原豊喜君）

静かに、静かに。技監いいですよ。

正午になりましたけど、このまま一般質問を続けさせていただきます。16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

今のほら、市民を生かした計画見直し。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

都市計画道路の見直しに当たっては、現在の社会情勢、交通量の状況等について、武雄市の道路ネットワークとしての検証を行い、現在関係機関と協議を行っております。

見直し案の作成に当たっては、地元説明会、公聴会を開催し、また、都市計画審議会の意見を聞きながら手続を進めていくことから、市民の意見は反映されるものと思っております。

原案作成の段階での市民の意見集約は考えておりません。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

私は今回は原案のところから山内、北方を含めて考えたほうがいいのかと思いますので、私はそういうふうに言っておきます。先ほどの件はまた別の機会に言いますので。

そしたら今度ですね、この先進まないとしたら今度都市計画道路はどこに着手する予定なのかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

現在の都市計画道路の整備状況でございますが、駅の周辺や中野御船山線の一部を整備事業進めております。今後は市の財政状況等を見ながら検討していきたいと考えておりますが、優先度の高い都市計画道路としては、武雄温泉街を周回する内町迎田線は必要ではないかなと考えておるところでございます。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

議長時間のほうは・・・。

○議長（杉原豊喜君）

だから今延長しますよと言ったでしょ。

○16 番（宮本栄八君）（続）

はい。進みます。

今、ちょっとはっきり言われたのでびっくりしましたけれども、ここの商工会議所と温泉のほうを回る道路、それについて今後していくうちゅうことで、それはそれなりにあれかなというふうに思います。それで5、6年くらいかかると思いますので、今のところはちょっとそういうことで理解したいと思います。

次に、図書館とこども図書館についてです。前回CD、DVDの充実ということで、するということだったんですけども、この間行ったら全然ふえてなかったんですけども、この辺についてどうなっていますか。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

図書館のCD、DVDの数でございますけれども、これにつきましてはリニューアル時とほぼ同じ数をそろえている現状がございます。現在約1,200点を備えているところですけども、一部は各関係する図書コーナーのほうに分散して配置しておりますので、あるいは少なく見られるのかもわからないというところなんです。

〔16 番「充実しとらんとでしょ」〕

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

充実してないですよ。普通のCDってですよ、小田和正の自己ベスト1枚しかなかったですよ。ほかになかですかと、いやなかですもんねって。そがんことのあるおかねていうことですよ。まあそういうことでよろしくお願いします。選書委員会のほうで、話し合っていたきたいと思います。

駐車場不足に対する根本解決ということで、これは先ほどの質問の中で駐車場確保するというので、この間の日曜日ですけども、もう満車って警備員さんが言ってるのにまた入ってきてるとか、こっちの横まで来てる。そしたら文化会館が第3駐車場ですよっていうことで文化会館行くと、文化会館はもうここまでいっぱいいっぱいなってるわけですよ。だから、少し緩和しているっちゃうこと、それは平日だからですね。昔のゆめタウンもそうですよ。最初らへんは平日も祭日、日曜日も混んどったですけど、今は平日はすいてるですけども土日とかそういうときはいっぱいなってるって、それでは普通のあり方なんですよ。だからそういうことで取り組んでいただきたいと思います。

私の候補地としては、こども図書館の裏側とか今職員さんが停めている駐車場の奥とか流鏝馬の土手のところ、昔ここは上がって見てたですけど、今はもう上がって見てないので、そことかこの反対側の土手です。だからまだしようと思えばたくさんありますし、武雄神社さんのほうも独自駐車場確保みたいなことで動いてあるんですもんね。だからみんながみんなそういうのにしていかなといかなっちゃうように思っております。そういうことですね。

次は、こども図書館の組む相手と内容ということですけども、組む相手はまだわからんということで、内容については、今は、基本計画は私から見れば、基本構想なんですよ。具体的にわからないんですよ。今はやりの岩を登るボルダリングみたいなのをやるのかどうかです。おもちゃコーナーがあるのかどうなのか、そこがわからんわけですよ。それでその内容については、実施計画の中で明らかにするということですけども、それを見らんと何もわからんもんで、その実施計画はいつ出されるのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

今、基本計画（68ページで訂正）の策定中でございますが、近日中に仕上がりますので、その結果を待って、予算の関係もございまして、ある程度の中身の説明もできるかなと思っておりますが、実施計画につきましては、この基本計画が固まって以降になりますので、6月、7月以降、9月までの間ということで実施計画が策定されるというスケジュールでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

6、7月ぐらいには内容がわかってくるということですね。そうですね、そんなわからない中にですね、今もう何か水路工事をされているんですよ。だから、ここにビオトープをつくるとかな、それとも埋めてしもうて広うしてるのかなって、そういうこともあるとですよ。だから内容等あれがわからんようになってきてるっちゅうか。

次は、北方幼稚園の件です。民営化の方針は出されてましたけども、これについて実施しない今の理由をお答えください。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

北方幼稚園の今後のあり方についてでございますけども、これについては、これまでの議会でも御答弁申し上げてきておりますように、地元あるいは関係者の御意見等を賜りながら進めてまいりたいという、そういう所存ではございます。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

聞くとところによると、北方バイパスのルートが当たるのでどうせ移転せんばいかんとやなかかなと。

新たにするよりも今北方の保育園さんが新しくなったので、そこをこども園化してそちらに移行してもらったほうが、市の支出というのは少なくなるのかなと思うんですけども、地元と協議してっちゅうことですのでもうこれ以上は言いません。

次に、学校等の整備で、神村学園の全日制の拡大です。第一歩としてスタートしてるんですけども本来、青陵、女子校廃止に伴う対策とかが必要だし、人が集まるかなということもありますけども。今サッカーで県外というのは、今佐賀の私立高校のほうがサッカー充実をしてくれていますもんね。龍谷グラウンドとか、清和のほうも大体女性が中心だったと思うんですけども今結構強い形になっております。その辺で神村学園の全日制拡大というのを、もう本格的に庁舎を利用してもらってですね、したらどうかと思いますけども、お聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

神村学園様については、ことしの4月10日に開校をされまして、41名の第一期の入学生を迎えられております。

議員御指摘の点につきましては、今年度の4月に開校したばかりでございますので、今後

の状況等を踏まえながら見るべきではないかというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

今後、落ちついてからということになりました。

次は、武雄小学校周辺整備です。武雄保育所の移転を生かしたグラウンド活用ということで、以前東川登の小学校が、あの辺に保育園があったと思うんですけども、その解体に伴ってグラウンド広くしていると思いますけれども、武雄小学校も今のところ市内に一番小さいということで、この辺の拡大についてのお考えをお聞きします。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長（「全く違う」と呼ぶ者あり）（発言する者あり）

静かに。

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

御答弁申し上げます。武雄小学校のグラウンドについての検討については行っておりませんが、保育所の跡地の関係については今後の検討課題ということで考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そこも含めて考えていただきたいと思います。とりあえず提案ですよ。私、東川登を拡大するときに建設委員かなんかしていたちゅうことで。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○16 番（宮本栄八君）（続）

すみません。先ほど都市計画道路が武雄小学校の南も西も行かんということですね、この間からいつも言っていますけども、こっちのほうもこっちのほうも行かんということは、ここの都市計画道路の沿線につなげるという方法になるかなと思いますけども、ここの主要道路で整備できないかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

保育所の東側の市道円応寺線でございますが、武雄保育所跡地を利用した離合場所等の部分的な拡幅は考えられますけど、その周辺部には民家等が隣接しているため、移転に係る多額の費用を投じてまでの全体的な拡幅、改良は考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

きょうのところはちょっとそういうことで。

○議長（杉原豊喜君）

もう時間ですよ。

○16 番（宮本栄八君）（続）

あと3分って書いてありますよ。

○議長（杉原豊喜君）

いや、終わった。終わりますって言ってください、そこで。

○16 番（宮本栄八君）（続）

そうですか。3分って出とったけん。すみません、終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、16 番宮本議員の質問を終了させていただきます。

議事の都合上、1 時 30 分まで休憩をいたします。

休 憩 12時14分

再 開 13時30分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

ここで午前中、宮本議員の質問のこども図書館に関する答弁について、執行部から訂正の申し出がっておりますので、これを許可いたします。水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

午前の宮本議員の質問の中で、こども図書館が今後どのような形になるのかという関係の質問の中でですね、私が基本設計と基本計画を誤って申しております。正しくは基本設計でございます。

基本設計ができれば、予算をいただいて実施設計に移るという手はずを説明したところでございます。訂正いたします。

○議長（杉原豊喜君）

一般質問を続けます。

次に、2 番猪村議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。2 番猪村議員

○2 番（猪村利恵子君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆様こんにちは。19 日の、のど自慢に見事落選して落ち込んでおりますのでちょっと口がどもっておりますが、2 番猪村利恵子、議長の登壇の許可をいただきまして一般質問をさせていただきます。

今、皆様方にモニターで見ていただいておりますのは御存じ、北方町杉岳の大聖寺のあじ

さいまつりの風景でございます。開かれたのは709年、今から1,300年前のお寺でございます。真言宗のお寺で、非常に古刹、名刹と知られております。ここから見える風景は1,300年の時を越える、眼下に大同メタル、武雄北方インター工業団地を見おろす1,300年の悠久の時を越える風景が見れて大変すばらしいものでございます。

市内にはこのような古刹、名刹、また神社、仏閣がたくさんございます。市長、職員さんの研修がいつも毎年開かれておりますが、たまには市内での座学ではなくこういった所に向いて、そして職員さんともども地域のことを知り、地域の方からお話を聞く、こういったこともひとつ勉強になるのではないかなというふうに思いまして、一つ提案をさせていただきます。

それでは、私の一般質問に入らせていただきます。私、今回5つの一般質問を掲げさせていただきます。1つ目に、災害対策について。2、新庁舎建設について。3、交通政策について。4、女性の活躍について。5、子どもの貧困についてでございます。

1つ目の質問でございますが、災害対策について。項目を2つ設けております。土砂災害対策について、それから六角川水害対策調整池等についてでございます。

災害対策について、土砂災害についてを1番目の項目に設けさせていただきます。これは私が地域の報告会をさせていただくに当たって、まわらせていただいたところに山間部が1つございまして、白仁田地区というところでございますが、大変急傾斜地にありまして、こういった危険区域でもございます。山つきのところに家がございまして、こういったところに、後ろのほうにありますが尾根が見えます。地域の方々は20戸足らずの戸数の地域でございますが、数十年、30年近く前に鉄砲水もあったということで大変心配をされております。

熊本の大震災、本当に復旧、復興を急がれるところでございます。お悔やみ、お見舞いも申し上げたところでございますが、そこに合わせて地域の方々、こういったところにお住まいの方々は非常に不安でいらっしやいまして、一昨年度もまわらせていただいたときに前市長も一緒でございました。

今回は小松市長も一緒でございましたけれども、こういった尾根の中の被害が、自分たちも30年前に登ったきりで、なかなか上まで登りきれないというようなお話をいただきまして、建設課、それから各担当の部署の方に御相談をいたしまして、登ってきたわけでございます。地域の方々がですね、これ徳連岳という裏手の山でございますが、道がわからないと一昨年度はおっしゃっておりまして、どうやって行けばいいのかというような御相談がございました。しかしながら道なき道に行くわけにもいきません。そういったところで、今回別件でまた地域の方々とお話しをさせていただいたときに、こうやって重機を借りて思い出し思い出しして登ってきたばいということで、こういった形で高齢者の方々、ほとんど70歳以上の方々が重機を借りて、女性の方々はこどりをしながらたくさんの竹や、それから木

材を切り倒しながら思い出しながら道をつくっていかれて、先に進まれて右下のほうに地滑りの箇所にああやって、アナグマでしょうか、たくさんの穴ぼこがたくさんございました。

こういったところで私、武雄市内でこういう山間部、大変心配なお暮らしをされているところがたくさんあるのではないかというふうに思いまして、土砂災害の危険箇所は市内に一体どのくらいあるんだろうかというようなところで、まず最初にお尋ねをさせていただきたいというふうに思っております。よろしくお願いたします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

先ほどの議員の質問でございますが、平成 17 年 3 月に佐賀県のほうで作成されました土砂災害危険箇所マップから集計いたしますと、土石流危険渓流が 409 カ所。地滑り危険箇所 28 カ所。急傾斜地崩壊危険箇所 1,105 カ所。合わせまして、武雄市では 1,542 カ所となっております。

○議長（杉原豊喜君）

2 番猪村議員

○2 番（猪村利恵子君）〔登壇〕

今 1,542 カ所の土砂災害危険箇所があるというようなことを説明していただきましたけれども、土砂災害危険箇所マップ、このようなものが北方町、山内町、それからこういうものが同じように旧武雄市がありましたけれども、ちょっと今手に入らないというところで、こういった媒体のものがあるというようなことでいただいております。

こういったところで見るとしてもですね、たくさんの危険箇所があるわけで、黄色、茶色、そのようなもので区分されておりますが、これが平成 15 年につくられておりまして、合併も前も前ですね、だいぶ前でございますが、このような昔のマップ、土砂災害危険箇所マップ、このようなものをつくっていただいておりますが、新しいものはまたつくられる予定があるのかどうかをまずお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

この土砂災害危険箇所というのは佐賀県が指定をされます。それで近年の全国の土砂災害の状況でございますのでですね、平成 24 年度からまた新たに土砂災害区域の設定のための調査をなされております。今現在、武雄市進んでおりまして、それが平成 29 年度には完成するというので、現在設定された分については安全安心課のほうから指定区域の各地区の冊子が全区に配布されている状況でございます。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

2 番猪村議員

○2 番（猪村利恵子君）〔登壇〕

急傾斜地ですので、県の管轄ということはわかっております。連休明けまして雨が降り続いておりましたのでなかなか行けませんでしたけれども、私もこの目で見たいということで、建設課の職員さんとともに、それから県の治山担当課の皆様と一緒にこうやって登って実際目を見てまいりました。

実際に地滑りが箇所箇所に起きておりまして、もし今、きょう北川部長の話もありましたけれども北縁断層がもし何かしらああって、そして7強ぐらいの地震がきましたら、あつという間に地滑りがここからおりてくるわけでございます。

そして、地層がしっかりしているので今すぐということはないかもしれませんが、しかしながらこの下でお暮らしになられていらっしゃる方々は、もう気が気ではないというふうに思っております。こういった形で武雄市内で急傾斜地の下に住んでいらっしゃる、こういった方々の家屋、それから人員などの把握、これは武雄市としてはどのようにされているでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

現在、武雄市においては、対象となります家屋数や人員数とも把握できておりません。

それで、先ほど申しました県による土砂災害警戒区域の設定のための調査と指定が、平成29年度に完了しますので、その時点になれば家屋数、人員ともに把握できると思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2 番猪村議員

○2 番（猪村利恵子君）〔登壇〕

今の調査で人員、それから戸数の確定ができるというようなお話を聞きまして、非常に安心をしたところでございますが、しかしながら最近の未曾有の災害、そういったことは急にやってくるものですから一刻も早くつくり上げて、そして安心・安全な暮らしを担保しなければならないというふうに思っております。

尾根が、こういった尾根がたくさんございまして、2カ所は砂防堤があると、この確認を建設課の方にさせていただいております。こちら辺に登ってまいりましたけれども、やはりここから真っすぐ行けるわけではないんですね。こちらのほうからぐんぐん登って行って行けるわけでございますので、なかなか地域の方々もすぐということにはなりませんけれども、こういった形で市のほうがしっかりと対策をとってくださっている。そしてたまには出向いてみるというような形をとってくださったら、地域の方々も安心されるのではないだろうか

というふうに思っております。

また、安心安全課さん、それから建設課さんなど、こういった災害のときに自分たちはどこに行ったらよかとやろか、どこに連絡ばすっぎよかとやろかというようなことも地域の方々からよく耳にすることがございます。こういった場合はこういった形で市のほうに問い合わせをしたらよいのか、そこを聞かせていただけたらと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

最近の雨を見てみますと、御承知のとおり未曾有のといえますか、想定外の雨が降ります。そういったことで武雄市においても、これまで考えられなかったような雨量のもとで大災害が起こるといえるのは否定できない状況でございます。

そうした中で、先ほどおっしゃいましたようにハードについては特に土砂崩壊の恐れがあるとか、もう既に崩壊をしているというふうな状況を見られた場合には、まちづくり部の建設課のほうにお尋ねをいただきたいし、ソフト面で言いますとそういった大雨が降ったときにはどこに避難したほうがいいのか、あるいは避難経路がどこにあるのか。こういった対応をしたほうがいいのかという、そういったソフト的な対応につきましては、安全安心課のほうで一応マニュアルを持っておりますし、先ほどまちづくり部長申し上げましたようにハードマップも、指定後、それぞれの御自宅に届けられるように作成をいたしております。

ただ、先ほど申し上げましたように、やはり危機意識の醸成が、やはり武雄市は災害が大きなのかなかなか久しぶりというときにしかきませんので、そういった気の緩みといえますか、市民の皆さんもちょっと警戒が薄いところありますので、そういった気持ちの引き締めも含めて安全安心課のほうにおっしゃっていただければ出前講座等を開催をしてですね、そういった心構え等についてもお伝えをしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

丁寧に御説明をいただきありがとうございました。

安心・安全な暮らしは市民の皆様の生命と財産の担保、しっかりと市のほうでも、市長の役目でもございますので、しっかりと取り組んでいただきたいというふうに思っております。熊本であった災害は自分のこととして考えなければならぬ。こういった時代がやってきましたので、私たち自身もしっかりと取り組む姿勢をもたなければならぬというふうに思っております。一市民としても勉強していかなければなりません。

続きまして、災害対策の――申しわけございません、1となっておりますが2です。六角川水害対策調整池等についてでございます。

きのうの佐賀新聞にも掲載がされておりました、六角川水系の洪水想定見直し、最大5メートルから10メートル浸水ということで見直しが図られているということでございます。北方町、それから朝日町、橘町、こういったところは六角川水系の恩恵も受けておりますが、なかなか災害がやまないところでございます。

北方町の北方小学校の付近も4月21日のあの雨でさえ冠水をいたしまして、夕方5時まで道が通れませんでした。急に降り続く雨、想定外の雨、子どもたちは学校に取り残されるわけでございます。夕方5時まで付近は冠水で道が通れないと、こういったこともまだ改善がなされていないということでございます。

こういったところで、私も2年前の6月議会、これは私も思い出に残る一般質問をさせていただきました。この大坪石材の採石場、この後調整池としてつくっていかうと。これはなんということだと、わくわくドキドキというかですね、一日も早く水害が、被害がなくなるように、こういった形でこんな掘削地を、全国でも珍しい掘削地を調整池にしようというような取り組みがなされると、こういうことはびっくりいたしまして2年前も一般質問をしたわけでございます。この後の進捗状況をお尋ねさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長（「予算のついでうけん、ちゃんと考えてしゃべらんと」と呼ぶ者あり）

○古川まちづくり部長〔登壇〕

平成24年8月に武雄河川事務所で制定されました、六角川水系河川整備計画に位置づけられております六角川洪水調整池でございますが、平成25年度より事前の調査を開始されて、漏水等や温泉源にも影響がなく事業効果も高いという結果が出ています。その事業効果と言いますと、大雨時の本川の推移が大体70センチから1メートル程度低下するという結果でございます。

市では、本年度から六角川洪水調整池等整備推進室を設置いたしまして、国の平成29年度事業化を目指して強力に推進しているところでございます。また、今後さまざまな協議等も必要でありますので、関係者の方々に洪水調整池地権者会の発足をお願いいたしまして、6月末には地権者会総会を開催させていただきます。

そのような進捗状況になってはいますが、よろしいでしょうか。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

これは昌宏議員さんからも指導を受けておりますが、事前審査にならない程度で一般質問をさせていただきたいというふうに思っておりますが、今地権者の皆様とも一生懸命、市と――行政側ともいろいろな面ですり合わせをしていただいて、前に前にと進んでいるわけで

ございますが、ここが六角川の調整池でございます、予定地でございます。そして私がですね、今からここが進んでいくわけでございますので、これは拙速な話かもしれませんが、この地図を見ていただきますと非常に地形的に豊かな地形だなというふうに思うところでございます。ここがこの前マラソンがございました保養村の池でございます。こちらが競輪場になります。

ここがですね、保養村、ここが宇宙科学館でございます。ここの保養村と非常に隣接しているなという地形が、なんかまたわくわくドキドキしそうな地形でございます。ここが嬉野線でございます、本当にここが保養村の加勢をするためのワークショップなども開かれておりまして、大変こども皆さん地域の方々に一生懸命取り組んで、活性化に取り組んでいただいておりますが、この調整池がここと、すごく虫が出るところですね、ここと隣接しております。ここがつながって遊歩道でもできて、そして四季折々の草木なども植えられたり、そして観光地の一つ、全国でも珍しい調整池ができるという予定地、ここを観光の一つの目玉にできないかなというふうなところも考えるわけでございます。

こういった形でより加速させて、ここが発展をしていかないかなというふうなことを考えておりますが、市長、このあたりどのお考えでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まず、市内での浸水危険地域の皆様の不安を取り除くために、一刻も早くこの事業化をですね、引き続き国交省にも働きかけていきたいというふうに考えております。

今の御質問の件ですけれども、例えば国営であれば巖木ダムなんかは近くに公園なんかを整備されてですね、やはりダムの周りに公園等が整備されるというようなケースは全国でも多くあるかなと思っております。翻ってこの調整池見ますとですね、ここは普段は水がたまっていないくて単なる穴なんですよね。ここをどう活用するかと。例えば穴を見に来る人、マニアックな人もいるかもしれないですけれども、普段たまっていないときは穴だというところですし、そこになかなか草花とかも根付かないんじゃないかなというふうにも思っております。ただですね、やはりそこはマイナスをプラスに変えるということで、そういった穴だからこそできることっていうところもあるんじゃないかなと。庁内で話してますとバンジージャンプやればいいのかとかですね、これ私じゃなくてまちづくり部長の意見なんですけれども、そんな話なんかも出ておりましたけれども、まさにいろいろなアイデアを、ぜひこれを機会に出したいというふうに思っております。保養村との一体性、ここも大事だと思います。

ぜひ我々も皆様の知恵をかりながらアイデアを出して、そして国交省にも働きかけていきたい、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。穴ですけれども、されど穴でございます。この穴の中に花を植えるわけではございませんので、周りに花を植えるわけでございますので、そういった形でも取り組んでいただけたらなというふうに思っております。

これはもう一つ、蛇足というか私の提案ではございますが、ここに水の出し入れがある、こういう排出、挿入、排出、そういったエネルギーも無駄にすることなく、小水力エネルギー、そういったものの設置、鹿島の中木庭ダム等々には設置があるのではないかなというふうに思っております。そういった形でも決して何一つ無駄になることがないような形で取り組んでいただければというふうに思っております。エネルギーの供給も地域の方々に還元ができるのではないかな。学習の面でも、子どもたちの学習にもつながるのではないかなというふうに思うところがございます。考慮していただければというふうに思っております。では、次にまいります。

新庁舎建設についてでございます。新庁舎は先ほど一般質問ございましたけれども、庁舎建設等特別委員会も設置されて委員長を中心に活発な意見が出され、それから前に進んでいるわけでございますが、市民の方々の関心も非常に高いところでございます。今の進捗状況をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

新庁舎につきましては、現在実施設計の業務中でございます。この秋までに実施設計業務を終えまして1年半の工期を見込んでおります本体工事、こちらの完成の時期を平成30年3月ということで、現在業務のほうを進めさせていただいております。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。それでは、市長と語る会などでも市長は利便性を図りたい、それから耐震性、宇土市役所など崩壊をいたしまして、大変麻痺する状況にあるというふうなところも話に聞いております。利便性については、どのような対策をとられているのでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

利便性に関しましては、現在の庁舎が、2階に、市民の皆様においでいただく窓口関係がございます。こういった窓口の部署を1階に配置をしまして、できるだけ諸手続が1カ所で済むような配置にするというのが1つでございます。

また、新庁舎の1階のホール、あるいは3階のデッキにつきましては休日の開放、こちらも可能にするようなことで設計を考えてるところでございます。また、1階には売店、コンビニエンスストアの入居を想定をしております。こういったことで庁舎自体の利便性も高まるものというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

この庁舎は昭和41年の建設で、耐震性、それから住民サービスにほど遠いということで、新しくなるようなことになっておりますが、ワンストップ行政もそうですけれども市民の方々が使いやすい市役所、こういったものを今検討してつくられているということでございますが、安全性、耐震の窓ガラス、そういったものとか、この安全性は一体どうなっているのかをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

建物の設計に当たりましては、当然でございますけど国のほうからの基準がございます。国交省のほうで官庁施設の総合耐震計画基準というのを示しております。こちらの基準の構造体I類ということで、最も高い安全目標I類というものを定めておりまして、この基準に従い設計をさせていただいているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

身近に災害が起きております。新庁舎6階建て、これは大変市民の皆様も関心が高い、そして楽しみにしていらっしゃるというふうに思っております。どうか利便性、安全性に留意して建設をしていただきたいというふうに思っております。では、次にまいります。

交通政策についてでございます。私、この交通政策について一般質問をさせていただくときに、市民の方から一番最初、みんなのバスが片道200円はちょっと高いんじゃないか、それから白いバスで何か味気ない、こういったお話を聞くことが多々あったものですから質問をすることにいたしましたけれども、市内で交通路線たくさん走っていると思います。

こういった形で今の市内の交通路線を踏まえて、武雄市の交通政策をどのように考えていらっしゃるのかをまずお尋ねをさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

公共交通につきましては住民の皆様方、また、武雄市のほうにお越しいただく方々の貴重な交通手段というふうに考えております。通常の乗り合いバス、それからみんなのバス、それからタクシー事業者、それからJRさん、さまざまな交通機関が武雄市のほうに乗り入れ、あるいはサービスを提供されているということで、公共交通機関というのは今後も十分必要な交通手段であり、ここについては積極的に市はかかわっていくべきだというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

モニターで用意をいただいているというふうに私は思っていたんですけども、この武雄市内のバス路線図、これが皆様、ちょっと小さいですけどもこういう路線バスの経路、これを市でつくっていただいております。これはとてもすばらしく、立派にできております。国土交通省がつくったものでもなく、バスの会社がつくったものでもございません。

（資料提示）これは市役所の職員さんが前年度、企画課でつくっていただいたものだというふうに聞いておりますが、企画課の職員さんでつくっていただいたものだというふうに聞いておりますが、たくさんバスが走っております。こういったバスに乗り合いバス、みんなのバスも含めてたくさんバスが走っているわけですが、ここのバスの路線、こういった形でたくさん補助金が出ているわけですが、みんなのバスについては市内で4台走っております。

牟田議員さん、それから松尾陽輔議員さん、上野淑子元議員が、以前もこのみんなのバスについてお尋ねをされておりますが、4つのバスで山内町、武内町、北方町、若木町でみんなのバスが走っております。しかしながら今の利用者数を見ますと、1便当たり1人か2人しか乗っていらっしゃらないことがたくさんあるというふうなことでございます。こういったみんなのバスの運行、これを市のほうは一体、これからどのようにお考えでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

みんなのバスにつきましては地域の皆様方と一緒に時刻、交通、こういったものを積み上げてまいりまして、現在まで運行をさせていただいております。議員御指摘のとおり平成27年度は1台当たりの乗車人数が1.41人ということでございます。地域によって、便によって

差はございますけれど、1.41人ということでございます。

みんなのバスにつきましては、御利用いただいている皆様方が御高齢の方も多く利用されているということもございますので、経済性ももちろん十分勘案する必要があるかというふうに思っております。地域の皆様方と今後のみんなのバスのあり方につきましては、御意見を伺いながら検討を進めていく必要があるかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

本当に暮らしやすさ、それから住民、福祉の立場から考えれば、本当にみんなのバスはなくてはならないものだというふうに思っております。経済でははかれないものがあるというふうに思うところではありますが、しかしながら今の現状では200円を、例えば半額の100円にしてください、それからもっともっと乗ってくださいと言っても多分これは無理だというふうに思うところがございます。路線バスも一緒でございます。

たくさんの、私もびっくりしたんですけれども、武雄温泉駅から図書館、ゆめタウンのほうまでのバスも、武雄温泉駅からたくさん走っているんです。5分で着いたり、3分で着いたり、4分で着いたり、こんなに武雄温泉駅から図書館、それからゆめタウンに行くバスがたくさん、これあるんです。

こういった形で今、武雄市は補助金を出しております。地方バス路線に413万、生活交通路線の維持の補助金に1,279万、廃止路線の代替バス運行費に1,071万、循環バス運行費補助金に1,280万、みんなのバスの補助金に1,217万。これ1年に5,300万の補助金が出ております。この金額と、それから乗っていただいている方々の費用対効果。これは費用対効果でははかれないかもしれませんが、こういった財政的な面でも、もう一度武雄市内の路線バス、それから交通政策については、見直しを図っていく時期に来ているのではないかというふうに思われます。

一つこれ提案なんですけれども、これは3月に大阪狭山市に武雄市内の子どもたち、それから保護者さん30名余りで行かせていただきましたときに、この循環バスが走っておりまして、大変かわいいなと思って写真を撮らせていただきました。市長さんにもお会いして地域の方々にもお話を聞いて、本当にかわいいですねって。これに乗って宿泊先からSAYAKAホールという子どもたちが舞台に出るところまで、このバスに乗って移動をいたしました。100円で東回り、西回りという通路がございまして、こんなにかわいいバスに、うわー乗りたいとまず思いました。そして子どもたちも、とても喜んで乗りました。

2年半前に上野淑子元議員が、ラッピングのことについても一般質問をされております。30万ほどかかるというふうな答弁があつて、その後ラッピングあつておりませんけれども、武雄市内のバスにはラッピングあつておりませんが、このようなラッピングをする効果とい

うのも私はなきにしもあらずじゃないかなというふうに思うところがございます。こういった明るい、かわいいバスが市内を走るだけでも明るい気分にもなりますし、武雄市ならではのラッピング、こういうのも考えてはいかがかなというふうなことも思います。

それから、大阪狭山市の、これは市役所でございます。この循環バスは市役所の所が発着所になっておりまして、大変わかりやすく乗やすい、こういった面もございました。新しいまちが今から武雄市はできていきます。新幹線の駅舎、それから市役所も新庁舎になります。こども図書館も予定されておりまして、競輪場、それから調整池も言わせていただきましたが、動線を考えればまたおもしろいまちづくりが市内にできるのではないかなというところで、こういったバス路線のことも考えていただきたいというふうに思っております。市長、このラッピングバス、それから料金について、それから交通政策について一言答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

このラッピングバスは見ていて確かに楽しそうなので私も嫌いではないんですけども、とにかく交通で一番大事なのは、やはり住民の皆さんのセーフティーネットとして足をきちんと確保するというところが、まずもって一番大事だというふうに思っています。今後恐らく社会情勢であったりとか人口であるとかですね、そういったあたりもだんだん変わってくると思います。それを見ながらですね、どういう形がいいのかというのは確かにそれは考える時期にきているというふうに思っております。

ラッピングについては、例えばこれもネーミングライツと言うんですかね。ひょっとしたら公告を出してもらえるところもあるかもしれないので、私としてはラッピングよりも先にそちらのほうを、少しでも稼げるように働きかけていきたいというふうに思っていますし、交通体系全体、これについてはやはり今後の地方創生の中でも喫緊の課題でもありますので、住民の皆さんの足をとにかくどう確保するかというこの1点で早速検討に入りたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

みんなのバスのあり方というのを、4町で走っておりまして、みんなのバスではないじゃないかということをおっしゃる方もいらっしゃいますが、しかしながら今市長もおっしゃったように、まずは市民の皆様の福祉の維持向上に努めるということが一番でございますので、それはそれとして、また、観光客の方々がたくさん、私、目にする機会がありまして、例えば駅のところでカイロ堂さんのお弁当をたくさん食べていらっしゃる、土日なんか特に、平

日でもいらっしゃいます。そういった方々にもっともっと武雄にいていただきたい、そういった活用もできるのではないかなというふうなことも思いまして、根本的に利用の見直し、それからもっともっとさらに利便性のいい交通政策をつくっていただきたいというふうに思っております。それでは次にまいります。

次、女性の活躍についてでございます。女性の活躍については、女性活躍推進法が8月28日、15年の通常国会に出されまして、それから8月28日の参院本会議で成立いたしまして、25年度までの時限立法ではございますが、女性の採用や昇進の機会拡大を図るために、従業員301人以上の企業や国、自治体に行動計画の策定、公表を義務づけたものであります。このような女性活躍法も施行をされております。

しかしながら、女性は社会に出るだけが活躍の場ではございません。家庭だったり地域だったり活躍の場はたくさんあるわけではございますが、しかしながら人口減少、社会の生産人口の減少、15歳から65歳までの労働人口が大変少なくなっているといったところも鑑みながら、社会の情勢としては女性の活躍をしっかりと求めざるを得ないというところ、ここの顔を背けることが、目を背けることができない実情になってまいりました。こういったところで女性の活躍を、私いろんな方々からも相談を受けるわけではございますが、この女性の活躍を阻む1つの要因でDV、このような被害で悲しい思いをされている方がいらっしゃる、これは否めない事実でございます。昨年度、DV被害全国6万人超えということもありました。9割方が女性ということで、年齢的には30代が一番多い、被害者も加害者も30代が一番多いというようなことではございます。暴力、殴られたり蹴られたりするということもさることながら、精神的な圧迫を受けて社会に進出できない、家庭が崩れてしまう、こういったDV被害の件数も、それから相談もあるわけではございます。

今武雄市内の女性総合相談として、今どのような相談業務が武雄市で行われているのか、まずお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

モニターお願いします。

（モニター使用）御指摘のDV相談ですけれども、女性総合相談ということで現在窓口の体制といたしましては、福祉課で月曜日と木曜日、毎週ですが専門員の相談員を2名おいております。また、委託事業として、ひとひとネットというところに男女参画課から事業委託をいたしておりまして、これについては北方の、女性が元気になれるセンターというのがございまして、そこで月水金、それから、子育て総合支援センターにおいて毎週第四土曜日に行っているところでございます。

現状といたしましては、これ3年間の経過でございますが、それぞれの窓口で相談を受け

まして、25 年が 177 件、それから 26 年が 260 件、それから 27 年度が 256 件ということで年々増加をいたしてきておりまして、特にDVについては増減ありますけども、かなりふえてきているというような状況でございます。また、そのDVの相談の中身というものは、ここにごらんになりますように子どもに関すること、夫等の暴力に関すること、生活困窮にかかわるもの、離婚問題にかかわるものということで、ここには夫等の暴力ということで14%挙げておりますけども、それぞれの項目にDVは存在をするということで御相談を承っておりますのでございます。

こういったDVというのは身体的暴力もちろんありますが、精神的な暴力、あるいは性的な暴力、経済的暴力と、いろんな、多岐にわたる相談があつてるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

2 番猪村議員

○2 番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。こういった要因は決してあつてはならないものでございます。

もう一つ前のモニターを。さっきのグラフ。もう一つ前、すみません、ありがとうございます。

ひとひとネットさん、書いてあります。ここ市役所の相談窓口が1つ、ひとひとネットさん、これは民間に委託をしているところでございます。週3回、北方のほうで相談業務をしていただいておりますが、月に1回、土曜日に子育て総合支援センターにおいても相談業務を行っていただいております。後藤代表いわく、本当にいろいろな方が来られますということです。

しかしながら、相談は必ずしも自分が住んでいる自治体に相談をするわけではありません。よその自治体からも来られます。また、うちの武雄市からもよその自治体に相談をされている方もいらっしゃいます。こういった形で、もっともこの数字はふえるわけでございます。こういった形で、女性のいろいろな諸問題、こういったことも一つ一つ解決をしながら暮らしやすいまちづくり、そして女性の、母親の問題は子どもたち、ひいては子どもたち、そして家族にも影響を及ぼします。必ずこういった形で相談される方が幸せになれるように今一生懸命、市、それから委託されているひとひとネットさん、真摯に向かい合っていると思いますが、こういった形で私たちもDV被害に深刻に悩んでいらっしゃる方たちが、こうやってたくさんいらっしゃるということを踏まえながら寄り添って、対応にしっかりと取り組んでいていただきたいというふうに思っております。しっかりとこれからは相談窓口、相談は大変困難なことがございます。対応するにも寄り添うにも非常に難しいことではございますが、これがあつて武雄市も優しい、住みやすいまちができていくというふうに思っておりますので、どうぞこれからは頑張ってもらいたい、それから解消に向かって各課あげて取り組んでいただきたいというふうに思っております。

それでは一番最後の質問になります。子どもの貧困についてでございます。先ほどの女性相談のことから関連をして質問を申し上げさせていただきますが。（発言する者あり）

それでは最後の質問に入ります。子どもの貧困についてでございます。本当にこんなことがあっているのだろうかというような地域の方々からの切実な声も上がっております。前回も山口裕子議員さん一般質問されましたけれども、本当にあってはならないことでございます。しかしながら、6人に1人の子どもが貧困を抱えているというような統計も見られます。

また、この貧困を放置すれば経済にも及ぼすというような、日本財団の調べで、放置すれば、15歳の年齢でこれは計算をされているわけですが、15歳のみで計算をされておりますが、2.9兆円の損失になると。しかしながら、これを全部の子どもたちで計算をすればもっともっとはかり知れない額になるのではないかとというような算出もされているところでございます。経済ではかるようなものではございませんが、この子どもの貧困について武雄市、さらに今から県内初めての課も設置をされるということで、しっかりと教育委員会、それから各課あげて取り組んでいただきたいと思いますところでございます。

子どもの貧困の問題で、161市町の首長で子どもの貧困問題について取り組み、子どもの未来を応援する首長の連合、これの発起人で市長も佐賀新聞にも載っております。こういった形で教育長、それから市長にこの子どもの貧困についてどう取り組もうと思っていられるのか、熱意を聞かせていただいて最後の質問にさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

4月からこども教育部に、こどもの貧困対策課、みんなの笑顔係を設置いたしました。これにつきましては、4月から赴任しております浅井副教育長をリーダーとして進めておりますので、少しだけ副教育長から説明申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

浅井副教育長（「頑張れ」と呼ぶ者あり）

○浅井副教育長〔登壇〕

この4月からこどもの貧困対策課ということで全9名が兼務してやっておりますけれども、さらに子どもの貧困対策ワーキンググループというものを市内につくりまして、そのリーダーを私がやっております、その中で教育から福祉まで横断的に検討をしていきたいというふうに考えております。

次世代を担う子どもたちというのは、さまざまな環境によって制約を受けることなく、健やかに育つことというのが環境整備、教育の機会均等を図っていくというのが貧困の連鎖を断ち切ることに大事だと考えております。

生活支援とか生活環境、学習環境、学習習慣の整備、そして学力の向上まで国は専門分化

が進んでおりまして、なかなか横のつながりというのは弱いというのが実態としてありますので、それは市だからできることということで職員の知恵を出し合って、協力してしっかりやっていきたい、そして市の実態も把握しつつ、必要な支援が、必要な子どもや家庭に届くように対策を行っていききたいと考えております。(発言する者あり)

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

副教育長のあとにちょっと答弁しづらいんですけども、首長連合について申し上げます。やはり子どもたちの可能性を伸ばす、環境に制約を受けないと、そういうふうな世の中をつくるというのは私だけではなくて、ほかの首長さんも共通の問題意識です。ぜひ全国の知見をそろえて、そして自分たちの施策に活用をしていく。

子どもの貧困というのは、自治体のサービス競争ではないというふうに思っています。どこかの自治体がよければいいというわけではなく、自治体間の格差が広がってはならないと。したがって、この首長連合をつくって、武雄市だけではなくて日本全体の底上げを図っていききたい、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

本当にサービス競争ではないということ。本当に1人でも多くの子どもたち、幸せに暮らしていただきたい。そして私90歳になるおばあちゃまが声をかけてくださって、もう私たちは十分よ、子どものことばしてやってというふうに手を握って私に訴えられたことが頭から離れません。子どもたちの貧困、本当につらいつらいこととございます。子どもの貧困は大人の貧困でもございます。しっかりと対応をとっていただいて、連鎖がなくなるようにこれからも取り組んでいただきたいというふうに思っております。

これで私の一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、2番猪村議員の質問を終了させていただきます。

以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 14時30分

